

昭和四十八年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議録第三号

館山市議會





# 目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	報告第一号	議案第四十八号	議案第四十九号	議案第五十号	議案第五十一号	議案第五十二号	議案第五十三号	議案第五十四号	議案第五十五号	議案第五十六号	議案第一号	議案第二号	會議時間の延長	日程の追加・常任委員会委員の選任	日程の追加・副議長の辞職	日程の追加・副議長の選挙	副議長のあいさつ	閉会	本日の會議に付した事件
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

一、昭和四十八年六月十四日(木曜日) 午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一 番	吉 田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流 山 源次郎	四 番	鈴 木 稔
五 番	近 藤 好 雄	六 番	栗 原 一 雄
七 番	渡 辺 昭 夫	八 番	石 井 武 敏
九 番	辻 田 実	〇 番	渡 辺 軍治郎
一 番	藤 田 益 治	一 番	五十嵐 昇
二 番	伊 賀 多 朗	一 番	和 田 一 郎
三 番	辻 井 謹 爾	一 番	官 野 敏 朗
四 番	安 西 益 男	一 番	島 野 茂 樹郎
五 番	君 塚 喜 三	二 番	鈴 木 市 蔵
六 番	田 村 源治郎	二 番	菊 井 敏 博
七 番	西 村 真 次	二 番	安 沢 徳 順
八 番	飯 田 義 男	二 番	望 月 照 正
九 番	田 中 禄 郎	二 番	秋 山 六三郎
一〇 番	遠 山 ヨネ子		

一、欠席議員 一名

一 番 山 本 昇

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程(第三号)



昭和四十八年六月十四日午前十時開議

日程第一 報告第一号 財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について

日程第二 議案第四十八号 昭和四十八年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

日程第三 議案第四十九号 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第四 議案第五十号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

日程第五 議案第五十一号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

日程第六 議案第五十二号 館山市教育放送センター条例の一部を改正する条例の制定について

日程第七 議案第五十三号 市道路線の認定について

日程第八 議案第五十四号 市道路線の変更について

日程第九 議案第五十五号 昭和四十八年度館山市一般会計補正予算(第一号)

日程第十 議案第五十六号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計補正予算(第一号)

日程第十一 議案第一号 出入国法案反対に関する意見書の提出について

日程第十二 議案第二号 小選挙区制に反対する意見書の提出について

議 午前十時十三分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十八名、これより第二回市議会定例会第三日の会議を開会いたします。本日の議事は

お手もとに配付の日程表により行ないます。

この際、議事について申し上げます。日程第一乃至日程第十にかかる議事案件の内容説明は、先日の会議のうちに終っており、直ちに質疑より行ないます。

### 議 案 の 上 程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、報告第一号財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出についてを議題といたします。

報告第一号 財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について

### 質 疑 応 答

○一〇番(渡辺軍治郎君) 二、三質問いたします。

三月の議会で谷藤原の測量費について問題にしましたが、事業計画には谷藤原の山林買収地が分譲土地の中に入っているわけですが、したがってこの経費としての測量費は、運動公園ということでは施政方針の中にございましたけれども、財産そのものは公社の中に含まれているわけです。したがってこの測量費の四百万円というのは営業費用として公社の中で支出すべきものと思えますが、この点はどうかということです。

それから営業費用の中に負担金として二千四百八百万円が計上されて



おりますが、これも先般の議会で給料の負担分として二千万円が一般会計に繰り入れられておりますが、この計算の根拠について、また、今後こういう人件費の問題をどういふに扱っていくのか、その点をお尋ねします。

それから、四十六年度の湊住宅団地の工事引当金の繰り戻しが一千百五十四万八千四百九十二円でございますが、引当金として出しているのは千二百六十六万九千七百四十二円ですが、百十二万二千二百五十円の差があります、これはどういうことなのか。

それから、北条小学校の引当金として四十五万計上されておりますが、前年度も四十五万計上されておるわけです。繰り戻しがないところを見ると、これは繰越分として計上しているのかどうか。

もう一つ七ページですが、財産目録の中に貸倒準備金として五百万三千五百五十六円計上されておりますが、これが貸借対照表の中には貸倒準備金として計上してないのが財産目録の中にあるのはどういうことなのか。

それから分譲土地の中に平砂浦団地ほかとありますが、この中に中央公園の半分、安房支庁舎のあと地、谷藤原の山林、こういうようなものがこの中に含まれているのかどうか。

それから、理事会の決議事項の中に参与の退職金が支給されております。それから参与の給与の改定があります。公社の規則を見ると給与関係の規定がありません。これはどのように支出されたのか。

それから、事業計画の中にミンクの飼育研究事業として二百二十四万三千円が計上されておりますが、ミンクの飼育について人

件費、えさ代、そういうものを含めて採算に合うのかどうか。以上の点についてお伺いします。

○企画課長（伊藤幸太郎君） お答え申し上げます。

まず二千万の兼務職員の給与の負担金の件でございますけれども、これはその際に御説明申し上げましたが、現在企画課の職員が公社の事務を兼務しているわけでございます。その関係で給与の一部負担といたしまして二千万市のほうへ繰り入れたわけでございます。

今後の問題でございませうけれども、やはり考え方といたしましては一定の率とでも申しませうか、そういうものによりまして今後やはり考えていくべきだということで現在考えております。それから、測量費の四百万のお話がございましたが、これはこの決算書には出ておりません。これは市の予算の中の四百万でございます。御了承願いたいわけでございます。

それから、次に北条小の前年度引き当てました四十五万の繰り入れがないじゃないかというお話でございますが、これは額が全然動いてございせんので、そのまま本年度も継続していくんだという考え方でございます。

それから、さらに湊団地の繰り入れでございませうけれども、これは一千二百万程度のものが百万程度減って戻入されているわけでございますけれども、湊団地のうちの工事の中で一部使われているものがございませうので、それを差し引きしましたものを今回繰り入れたわけでございます。

それから参与の問題でございませうけれども、これは参与といたしまして二名お願いしておったんでございませうけれども、一名の



方が健康上の理由からいたしましたしておやめになりました。その関係で退職金を支給したわけでございます。

それから給与の問題でございますけれども、これは大体役所の職員の例に習いまして支給しておるわけでございましたが、いろいろ御意見等もございましたので、この問題につきましてはいろいろ検討いたしました結果、本年度から一定の給与額を報酬としてお支払いする、他の手当、その他の関係は、たとえばいわゆるボーナスとかそういった問題につきましては支給しないというようなことで今年度からやってみたい、そんなふうに考えております。

それから貸倒準備金でございますけれども、これは五ページをちょっとお開きいただければわかると思いますが、売掛金の中に貸倒準備金として五百万円余を計上してございます。ひとつ御了承願いたいと思います。

ミンクの件につきましては、これは四十七年度のいわゆる公社の事業計画の中に出ておりますのは主に飼料代でございます。

〇一番（渡辺軍治郎君） 谷藤原の測量費の問題について、これは一般会計から出したのはわかってるんですが、当然こういう経費は公社から支出するのが妥当ではないかということを質問したわけです。そういうことについては回答がなかった。

それから引当金の繰り戻し繰り入れについては、こういうふうに出されると前と比較してちょっと疑義がわくわけで、当然引当金として繰り出したものは会計年度においては全額繰り戻して新しく繰り入れなければならないやつを計上するのが妥当だと思ふんです。どこの会計のあれを見ても年度の終りには繰り出した

ものは全部繰り入れて、新たに繰出分は計上するというのがたてまえになっておりますからそのように改める必要があると思ふんです。

それから人件費の問題ですが、二千万円というのは過去何年分のものか、そういう点が非常に不明確で、おそらく四年分くらいものを想定して二千万という数字を出したと思うんですが、この根拠がはっきりしないんでお尋ねしたんですが、そういうことに対する回答にはなっていない。根拠がはっきりすれば今後どうするかということではっきり出てくると思うんですよ。そういう点が非常に不明確です。

それから分譲土地については、中央公園は市が公社に売ったというような形で、これは半分が公社の財産になっているわけで、安房支庁のあと地もそうだと思いますが、谷藤原を含めて約三億近い金が固定資産として寝ているというようなことで資金繰りをかなり困難にしていると思うんです。これが債務負担行為の中に三億円近いものが出てきている点では、この公社の資金の運用が非常に不明朗なそういう形の面も考えられるのでこれを質問したんですが、これに対するお答えはなかったわけです。

それから参与の退職金、給与の改訂についての金額的なそういうものが報告されませんが、私聞いたのはどのくらい出しているのか、そういう点はいままで私たちに参与の退職金とか給料とかそういうものがあまりはっきりされていないので質問したわけです。

それからミンクの問題は、一体ミンクの飼育をやって採算が立つのかどうかということで、ただ飼料代のことについて聞いたわ



けじゃないんです。当然これは飼料、人件費を含めて採算に合うのかどうか。

もう一つはミンクの飼育が館山市のひとつの定着する事業として見込みがあるのか、ということは、利益がどのくらい出ているのかということがわからなければこれは相当問題があると思うんです。その点についてもっと詳しく説明をお願いしたいと思うんです。

〇企画課長（伊藤幸太郎君） 谷藤原の問題でございますけれども、前回の議会におきましてもいろいろ御意見もあつたわけでございますが、いま申し上げましたとおり測量費用につきましては市の予算をもちまして実施するということでお決め願つたわけでございます。公社としましてその費用を云々というお話でございませうけれども、そのようなことで一応議決されたわけでございますので、その線に沿って測量も実施されるというようにすることで考えているわけでございます。

それから引当金の問題でございすけれども、御説のとおり一応経理を明らかにする意味では、お話のとおり一たん繰り入れまして、さらにまた引き当てをするということのほうははっきりすることは事実でございすので、今後そのように考えてまいりたいと思ひます。

それから例の兼務職員の負担金の問題でございすけれども、先ほども申し上げましたようにこの二千万につきましては過去何年間全然負担はしておらなかったわけでございす。そういう意味でございすので四十七年度におきましては一定のきまつた率というようなのはございせんでした。しかしいろいろの観点

から総合しまして二千万という数字をはじき出してみたわけでございすますが、その点につきましてもいろいろ御意見はあるようでございしましたので、今回一定の考え方をまとめまして、そしてその率によります負担を考えてまいりたい。そういうふうに考えておるわけでございす。といいますのは、やはり兼務職員でございすので本務の企画課の仕事、それから兼務しております公社の仕事、それぞれ率がございす。そういうものを基礎にいたしまして公社の経営というものも加味しまして一定の率を考え、そしてその率に従つて今後は考えてまいりたいというふうに考えておるわけでございす。

それからミンクの問題でございすますが、これは出発そのものが御承知かと存じますが、あくまでもこれは農家にミンクの飼育がはたして副業としていいものかどうか、これをひとつ公社で試験してみようという出発できておるわけでございすますが、でありますので現在までまだ製品等もできておりませんし、売り上げも全然ないわけでございす。現在まではつき込む一方というわけでございすますが、昨年出産がございまして、そして親ミンクの皮をはぎまして現在製品として埼玉のほうへそれを注文してあるわけでございす。そのものがはたしてどの程度のものに売れるかどうか、これはまだ未定でございすますが、そういうことでございすので、あくまでもこれは試験飼育ということでございすので、今後もしそういう意味合いでいま少し飼育をしながら、はたして成り立つかどうか、あるいは飼育上問題点はどういうものか、そういうものを十分検討した上でこの問題は処理していきたい、そんなふうに考えておるわけでございす。



分譲土地の中に御承知のとおり安房支庁のあと地、それから谷藤原、全部含まれております。中央公園も含まれております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 私が聞いているのは、こういうふうに運用資金が固定資産に寝ているわけです。そうするとこの分については利息は毎年ちゃんと納めなければならないわけですよね。

そういう点で運用資金がかなり制約されるということであるから、三億円の債務負担行為を一般会計のほうで出してもらいたいというふうなことになるんじゃないかということをお願いいたします。公社の資金の運営のやり方についてこういうふうに資金がどどん寝ていると、ますます運営資金が困難になるという問題があるんでお尋ねしたわけです。そういう点はどういうふうにお考えになっているのか。

それからもう一つ、さっき測量費の問題で予算できなかったからということ、それでこういうふうに予算できなかったということじゃなしに公社の財産、谷藤原はまだ運動公園としてなっているわけですから当然測量費は公社の負担として、経費として計上するのが妥当じゃないかということも質問しているんで、予算できまったらこうしたんだということではない、そういう点をどういうふうに考えているか。今後公社の中のいろんな財産、そういうようなものに対する付帯的な経費が出てきた場合にはこれは公社の会計でまかなうのが当然だと思っております。そういう点を聞いているわけです。

〇企画課長（伊藤幸太郎君） 谷藤原の問題は先ほども申し上げましたとおり、これはあくまでも公社で費用を持つべきか、あるいは市の予算に組み入れることが妥当であったのかどうか。これは

いろいろ考え方はあろうかと思いますが、少なくともいろいろ御意見を承った上で終局的には市の予算に計上して測量については実施しようということでおきめ願ったわけでございますので、この四百万の測量の問題につきましては公社の負担としていまのところ考えておりません。

それから手持ちの財産が相当ございます。たとえば安房支庁のあと地、いろいろあるわけでございますが、これにつきましても順次処分をしていきたいということを考えておるわけでございます。当然この運用の中ではこういった手持ちのものにつきましてもの利息その他がからんでいることは事実であります。でありますので機会あるならできるだけ早く正当な処理をしてまいりたい。

安房支庁のあと地の問題にいたしましたも。それから中央公園は、これはあくまでも市から私どもが買いました、ある意味でお借ししてあるようなことになったわけでございます。でありますので、それらの問題もなるべくならばできるだけ早期に処理していきたいというふうに現在考えて、いろいろ工夫をしておる状況でございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） ミンクの問題についても一回お聞きいたしますが、ミンクの飼育は生えさが必要なんで、一般化した場合には飼料の問題が行きづまりが出てくるんじゃないかということが考えられるわけです。いままで試験的にやってみて相当見通しとしてはこれが採算に乗って、一般農家がこういうものを定着できるかどうか、そういう点の見通しはすでに出てくるんじゃないかと思うんです。それを定着しないようなこういう事業を、えさ代をかけてつぎ込むだけでやってきても、はたしてこれが市



民の福利的なものとして定着する可能性があるのかどうか。ここらの検討を早くして、えさ代にしてもつぎ込むだけじゃどうにもならぬでしょう。見通しがなければ打ち切ったほうがいいのか、そういうふうにも考えますが、そういう点はどういうふうに御覧になっているか。

○企画課長（伊藤幸太郎君）

いまお話の出した飼料の問題、これは生飼料はルートがいろいろむずかしいわけでございましてたいへんでございます。しかしながら最近合成の飼料が販売されまして、はたして飼料によっての飼育がよろしいかどうか、これはいま試験中でございます。その飼料でよろしいという成果が出ますれば非常に手数が省けてまいりますし、一般の方にかりに育てていただくようになります。非常に買いやすくなるというようなことになると思いますので、この販売されてまいりました飼料を目下半分ずつ与えまして本年度は飼育の状況をみようというような考え方で現在進めております。

将来の問題につきましては、いま申し上げましたようなものを十分検討しました上で、成果をみました上で処置の問題については考えたい。現在そのように考えておるわけでございます。

○二〇番（君塚喜三君）

ただいまの問題とちょっと関連しまして私聞いておりまして納得のいかにぬ点一点につきましてお願いするんですが、市の開発公社による谷藤原の開発用地取得事業を公社事業、すなわち公社独自の事業の中の分譲土地として位置づけておるわけですが、運動公園の建設を目的とした市の委託事業であるべき性格のもんであって、したがって市の予算書の中には当然債務負担行為として位置づけておかねばならない問題ではな

いか、私はそう思うわけなんです。

ただいま一〇番議員の質問にもありましたように、公社独自事業として取得した用地に対して現形測量委託料として四百万を出すということはいかにしても筋が通らないんではないか。他人が取得したものに對してそのような四百万という額を測量費に出しているということはどうしても筋が通らない。これは当然将来運動公園として買収するんだということを前提としたものである以上、やはり債務負担行為として予算書の中に当然計上されるべきものであり、前々この問題には何回か触れましたけれども、当然市の議決を経なければならぬ問題じゃないかと、また私はその点に對して疑念を持っているわけです。この点どのようにお考えになるか、再度お尋ねします。

○企画課長（伊藤幸太郎君）

谷藤原の用地につきましては、当初やはり運動公園の用地として適当じゃなからうかというようなことから一応取得の手続き、その他を踏んだわけでございますが、御承知のとおり年度途中におきましていまお話のあったような点につきましていろいろの御意見がございまして、直ちに運動公園用地として位置づけることはどうかというような御意見も出まして、その結果公社のいわゆる開発用地として一応買い上げるというようなことで買い上げをしたわけでございます。

公社の立場から申し上げますと、いまお話のあったような順序を踏んでいただくことを公社としては希望するわけでございますけれども、いろいろ事情がございましてので近い将来にそのような位置づけをしていただけるような時期まではいま申し上げましたような開発用地として、公社の用地として位置づけをしてあると



いうわけでございます。

測量の問題につきましても、先ほどもちょっと申し上げたんですが、いろいろの問題点も考えられると思います。いまお話のように人の土地を測量するのにというような考え方もあろうかと思ひますけれども、やはり申し上げましたように、あの用地は運動公園用地としてはたして適当であるかどうかをもう一ぺん測量によって確認しようというような目的もあるわけでございますので、いろいろお願ひの結果市のほうの予算においてその測量費四百万が計上されて、そして本年度これを実施したいというような段取りになっているわけでございます。

いろいろお考えもあろうかと思ひますけれども、さような経過をたどっておりますので、ひとつ御了承願ひたいと存じます。

○二〇番（君塚喜三君） 開発公社の設立要綱にもありますとおり、公社が売却する用地の価格というものは原則として公社の土地買収費、それから造成費、維持管理費、通常経費及び相当する利子を加算した額としてこれを営利を目的としないで売るんだということになっておるわけでして、そういうことであるならば何も市の一般財源からそのような金を支出させなくても公社が損するとかどうとかそういう問題ではないと思います。なぜそういうことをなさるんですか。当然に売却の価格にそれが積み重なってくることなんです。同じことなんです、市のほうとしては。いかにしても筋が通らない。再度この点についてお尋ねします。

○企画課長（伊藤幸太郎君） いまお話がいろいろ出ておるわけでございますけれども、再々申し上げますように現在のところは公社のいわゆる地域開発用地として取得したわけでございますので

この位置づけをしてあるわけでございます。近い将来に皆さま方御意見によってあそこを運動公園用地として適当だからというところで、市のほうで買収していただけるまではやはりいま申し上げましたような位置づけによって公社の持ち分として管理していくというようなことに相なっているわけでございます。まあいろいろございましてと思いますが、そのような経過と事情をたどっておりますので、ひとつ御了承願ひたいと思います。

○二〇番（君塚喜三君） だから測量費とかというようなもの公社で出すべきじゃないですか、公社の独自事業として取得をした、市に関係なく、市の議決を得てない、公社が独自で取得した土地なんです。その測量費をなぜ市が負担しなければならないのか、この点がどうしても私には納得いかないんですよ。市が買っていくんだということも前提にするんなら、当然債務負担行為として予算書の上にはっきり承認を求めたらいいいじゃないですか。四十八年度にはありません。いかがです。この点再度確認いたします。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 事業につきましては再々申し上げたとおりでございますが、測量という問題にしましてまいりますと先ほどもちょっと申し上げたとおり、あれは運動公園として測量の結果はたしていいかどうか、その問題をもう少し確認しようじゃないかということで測量しようというのが目的でございます。これは御承知のとおりだと思いますが、そういう目的によってあの測量を始めようということでございますので、いろいろ御意見もございましたけれども、結局いま申し上げたような目的のためにあそこを測量したいということでございますので、いろいろ御



相談の結果市のほうの予算を持って実施するという事に相なったわけでございます。でありますので、測量そのものの問題としましては公社においては四十八年度におきましても費用、その他は計上しておらないというわけでございます。

〇二〇番（君塚喜三君） たいへん気の長いことをおっしゃっていただきますけれども、すでに四十八年五月末現在において借入金一億九千五百万になっておるんですよ。それらを今度市に売却するときにはその利子はみんな積み重なってくるわけなんです。市中銀行は救済されているかもしれないけれども、市にしてみれば血税からこの利子を払っていかねければならぬことと同じなんです。手

利子補給することなんです。だから申し上げているわけです。手付金三千六百四十万のときは年八分で借りた、その後公定歩合が引き下げてなって幾らでお借りになったか知りませんが、

おそらく七分七厘、このぐらいの額で市中銀行からお借りになったと思うんです。たとえ七分七厘としても一億に対する七分七厘というのは年額七百七十万、一千万をこすじゃないですか。一千五百万以上のもことになるわけです。約二億です。一億九千五百万という莫大な投資をして、しかもこれを市が買う場合にはみんな利子を払わなければならぬ。そんなのんきにかまえておられる問題じゃないわけです。この点いかがです。

私も市の開発公社の理事の一員として今度加わったわけでございますけれども、しかし理事の職務というのは公社の理事会の組織の規約にあるとおり、理事会を組織し、業務の運営について審議決定をするという役なんです。私は議員として政治的にこの問題をあなたにただしているわけなんです。いかがでございましょう。

〇企画課長（伊藤幸太郎君） 繰り返すようでございますけれども、いろいろと申し上げたような事情によって今日まで立ち至っているわけでございます。今後の問題につきましてはそれぞれまたその時点時点におきましていろいろと御相談もされた上で処置されるというようなことであろうかと思っておりますので、ひとつ御了承願いたいと思います。

〇二〇番（君塚喜三君） これ以上言っても進んだ御回答を得られませんので、本問題は補正予算のところの債務負担行為の三億のワクの拡大、この問題にも関連いたしますので重ねてその時点において質問いたします。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

## 議案の上程

〇議長（吉田勇治郎君） 次、日程第二、議案第四十八号昭和四十八年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十八号 昭和四十八年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

## 質疑応答

〇一〇番（渡辺算治郎君） 期末手当の特例に関する条例について、大体条例では百分の百七十が規定になっておりますが、新しく百分の六十を加えるということで、一般職員の場合については了承いたしますが、特別職、特に非常勤の特別職、そういうものを同



列に扱ったということについては多少問題があると思うんですが、そういう点はどういうふうにお考えになっておるのかお伺いします。

○人事課長（小沢正治君） お答え申し上げます。別に法的にはこれといったはっきりした根拠はありませんけれども、一応千葉県下の二十六市の過去数年間にわたります一種の実績といえますか、それに基づいて館山市もそれにならうという立場からのものです、さいます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの質疑の中で、私は一般職員と特別職を同列に扱ったということについては反対であります。

というのは、一般職員は八時間労働勤務しているといえますか、そういう常時勤務しているわけですから、一時金の百分の六十を加えたことについてはこれは異議ありません。こういう点

については賛成いたしますが、しかし特別職は相当の高給者であります。また議員の場合は非常勤であって報酬をもらっておるという点で、これは条例どおりに百分の百七十、この線では私はいくのが妥当だと考えます。

この問題については一般職員の期末手当については賛成いたしますが、特別職の手当の増額については反対いたしますもので、私はこの採決には加わるわけにはまいりませんので場外に退場します。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第四十九号館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十九号 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について



○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略して、直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第五十号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

### 質疑応答

○二〇番（君塚喜三君） 本改正によって低所得者に対する国保税の軽減をはかる、すなわち所得にウェートを置く、この趣旨には賛成をするものでございます。

しかしながら、低所得者に対する国保税の軽減措置とはいえ応益割りについても、第五条の均等割りにおいて二千二百二十円を二千八百二十円、六百円のアップである。第五条の二、平等割りにおいても三千四百八十円を四千六百八十円に千二百円のアップであります。合計昨年対比二千円のアップであります。ただアップの割合を小さくしたにすぎないのであってあげ底が実態であります。

これも現状からしてやむを得ないと一步譲っても、問題は国保税条例の第二条のただし書きで、すなわち八万円頭打ちについてなぜ撤廃するか、引き上げないのか。これではその該当者は一銭も上がらなくてもいいことなんです。片手落ちではないかと私はこのような意味合いから本改正は不十分で賛成できない。この点をどう考えるか。

また、八万円頭打ちの該当者は何人ぐらいあるのかお尋ねをいたします。

○税務課長（榎路良夫君） お答え申し上げます。八万円の限度額オーパーにつきましては、これは法律で定められております。市が独自で八万円を撤廃し、十万あるいは二十万ということはできません。

なお、八万円をこえる場合での該当数でございますが、前年度四十七年度の結果でまいりますと三百四世帯、本年度これを約二割程度上回るのはないかというように予想しております。以上



です。

〇二〇番（君塚喜三君）

国保税が非常に上がってまいる中であげ底をやったということになりますと、所得者が非常に大きな負担ということになるかと思いますが、ただいま八万円の上限については国できめてどうにもならないんだということで、これは国でそのような決定をみておるとするならばどうにもならないでしょうが、もう少し政治的な配慮ができないかどうか。いかがでしょうか。

〇保健課長（綱島憲治君）

御案内のように現在の国会に健保の改正案が提案されております。それによりますと十萬四千円が二十萬四千円まで保険料を賦課することになるわけでございます。したがって八万円というのは健保の十萬四千円に對比をした上限というふうに私ども承知しております。したがってまして健保の改正案が通れば上限の八万円はそれに比例して上げられる法改正があるものと考えております。

なお、われわれの段階での保険税の上限八万円を少なくとも十萬円にしろという要求はしております。現在健保の改正案が通ればややそれに近くなるというふうに考えております。以上。

〇九番（辻田 実君）

第四条のところでございますけれども、これは若干全体として五%ですか、下がっておりますについては私はけっこうだと思ひますけれども、ここで現在いろいろと私どものところへ入ってくる情報では、住宅ローン等によってまだ返済してない方が、返済途上にある人が固定資産税はそのまままる賦課されておる。三十坪未満の、百平米ですか、未満のものについて若干免税三年間のものがあるわけでございますけれども

この関係についてはどういふふうになっているのか。免税された額について、三年間のそれについてのものにかかるのか、それとも免税前の基準で賦課されるのか。この点についてまず第一点伺いたい。

私は固定資産税についてはいま言った住宅ローンの返済が終つてないもの、これは家から土地から金融機関に担保に入っちゃつて月々五萬圓借りれば五萬圓平均ぐらひ返す。三萬圓借りれば三萬圓返していく中でその上に固定資産税がとられて非常に問題だということでもって、これに対する税法の訴訟が云々とか一部のサラリーマン減税とかいう中で柱になつて出ているわけでございますけれども、これらの人について、固定資産税について、また保険税が賦課されていくということについては、非常に家は持ちたい、ローンでやる、そうすると税金から保険までかさんでくる銀行については七分なり八分の利息をとられていくということではこれはえらい問題が出てくるんじゃないかと思ひますけれども、この点については検討する余地がなかったのか、検討されたかどうか。お伺いしたいと思います。

二点です。

〇税務課長（越路良夫君）

第一点の新築住宅の場合の軽減と保険税との問題でございますが、固定資産税におきまして一定の条件につきまして三年間の、ただし木造につきましては三年間、それ以外の場合につきましてはそれぞれの年数による軽減措置がございます。

保険税においての資産割りは軽減後のものが計算基礎として算定されております。



なお、いまの新築住宅の場合、ローンの問題等につきましてはこれは保険税の中ではなくて全体の税の制度の中で、たとえば国税の場合におきましても所得税の減税措置等においては取り上げておりますが、今回の保険税としての対象の中ではそのものについて減税するという方向での基礎としては考えておりません。全体の税の制度の上でローン、あるいはその他の融資関係についての住宅政策、これはなされております。

固定資産税が上昇云々という問題でございますが、これにつきましては前年度の保険の中の資産割りと本年度の保険の積算の基礎となりました固定資産税とを比較しますと一割八分程度の上昇ということでございます。

○九番(辻田 実君) 今回の場合にはパーセンテージの割合からいきますと前年の割合が確かに減っております。それからこの条例に基づく額も七%ほど減ってはいるわけでございますけれども、しかしながら固定資産税そのものが相当上がっておりますわけでございますから、二倍近くに平均に上がっていると思うんですけれども。そうなると納めるほうにしてみればまた税金が上がった、この条例でいくという条例はパーセンテージを低くしたから減税のような形に受け取れますけれども、現実出る人は、三十坪以下の住宅というのはほんとうのマイホームです。マイホームに住んでいる人については将来その土地を売ってどうこうということはありません。まわりの地価が上がるのが周囲の環境が変わる方が二十年三十年住んでいるということですから、全く商品価値、売買価値というのはゼロ、ゼロというか売るといことはまずあり得ないわけでございますから、そういう中をもってまわりの地価が上

がったとか、まわりに商店ができたとかでもって、それでその地価が上がるとかそういう形でもって固定資産税が上がっていく固定資産税が上がっていった場合について現実には保険税はそういう面を考慮して、今度四条についてはパーセンテージを落とし込んですけれども、現実的には落としただけでも一割何分ぐらいは総体的には上がるということになるわけです。

この点について私はかなり抵抗があるだろうと思いますが、い言われましたように所得税そのほかについては三十坪以下の住宅については減免措置が講じられるわけですから、今回の場合は考えておらないということでございますからこれはやむを得ないわけでございますけれども、ここでとにかく市長に伺っておきまされども、一つは将来来年等についてこの問題については所得税その他の国税に準じて減免措置を考える意思があるかどうかということです。住宅ローンを払っている人とか、それから三十坪未満の全くマイホームであって売るあがないという住宅についてはスライドしていくということ、これについて一般の固定資産税と分離して保険税については分離する意思があるかどうか。この点をまず伺っておきたい。

○市長(本間 譲君) 現在の制度ではそういうことができないというところでございますので御了承願います。

○九番(辻田 実君) 税務課長にお伺いしますけれども、いまの条例を改正することはできないかということです。八万円以上のあれについては規則でそうになっておりますけれども、しかし四条をたとえば一、二と分けて、またはただし書きをつけて三十坪未満の住宅ローンですか、そういうものを返済中の者については固



定資産税についてはある程度パーセンテージをさらに落とすとい  
うんですか、形なり、免除をすると、資産割りにについては除外す  
る、こういう規則を設けることは法なり、税規則に違反するかと  
うか。館山市の議会が発議して承認すれば、そういう法的な問題  
には抵触するかどうかということをお伺いしたいと思えますけれ  
ども。

免除じゃないですよ。保険税をただ資産割りの部面だけを除外  
できるあれはできるかどうかということです。

○税務課長（越路良夫君） お答え申し上げます。保険税の算出に  
あたりましての、御承知のようにそれぞれの課税にあたっての配  
分割合、配分額、それを大元にしまして、あと積みあげまして、  
その積み上げの中で現在の辻田議員のおっしゃる問題が出てくる  
かと思いますが、実際の扱い上それがはたして可能かどうかとい  
うことは次といたしましたが、現在の保険税の課税にあたっての  
扱い上いろいろその中の操作ということは具体的にはいろいろ  
検討する事項もございますが、現時点におきましての扱い上はで  
きません。以上でございます。

○九番（辻田 実君） この制度じゃできないことはわかってるん  
ですよ。法的にいま言ったようにやった場合に違反かということ  
です。

端的にいきますと、四条中に固定資産のあれについては百分の  
四十二になる。ただし住宅ローンを使っておる三十坪未満、百平  
米未満の住宅については除外するという条例を制定することは法  
的、税規則で違反かどうかということです。法問題として発議が  
できるかできないかということです。いまの制度じゃもちろんそ

ういうことになっていないからそういうことは運営できないこと  
はわかっています。しかしながら住宅ローンを納めている者につ  
いては私は非常に問題がある。いままでも放置されてきた、次の機  
会なり、これからの機会としてそういう問題ができないかどうか  
ということです。

ほかの所得税もそういう問題があるわけです。現に固定資産税  
については木造について三年間だけの免除があるわけです。いい  
ですか。今度はそれについては、健康保険については固定資産税  
の計算をしないということはただし書きでローンを払っている場  
合とか、固定資産税ですらローンを使ってやった場合に三年間、  
こいつは割り引きになるということになっているわけです。だか  
らそれについてはこの所得割りとか、均等割り、世帯割りにつ  
いてはちゃんと納めるけれども、しかし固定資産税の基礎計算とし  
てそのローンを使っておる人について百平米未満のものについて  
は固定資産税から削除するとか除外するということは法違反の  
問題なのかどうかということです。館山の問題じゃないですよ。  
その問題についてできるかできないか、一言でけっこうですから  
お答え願いたいと思います。

○税務課長（越路良夫君） 結論から申し上げますと、そういう特  
例の、特別の扱いをやることは違法に近いんじゃないかと、適当  
じゃないという解釈をしております。

なお、ただいまのローンの問題、他の軽減措置の問題ですとか、  
これはたとえば軽減措置を二分の一、固定資産税においても新築  
住宅の場合でも軽減措置が二分の一でございますが、そういうもの  
との均衡上も当然出てまいりますし、現在でも資産割りというも



の趣旨からいった場合にそういう特殊な扱いをやるということ  
はこれは適当じゃないというふうに解釈いたします。

○九番（辻田 実君） 要望になりますけれども、ひとつ市長さん  
はそういう点については思いきりがいいわけです。違法に近いも  
のだからということで、違法に近くても違法じゃないと思います。

現に所得税ないし固定資産税については減免措置は法的にもは  
っきり出ているわけです。これが国民健康保険の資産割りだけの  
ものについてはできないことはないんじゃないかと。これは今後  
そういう住宅政策の上からも、それから現在のローンを払って二  
重三重負担をしているそういう住宅ローン利用者の税の問題等考  
えた場合に、私は前向きでもって備えることはアイデアを越した  
基本的生活の問題として大切なことじゃないかと。

現に、率直に申し上げておきますけれども、市長さん聞いても  
らいたいんですけれども、住宅ローンを払っている人の家庭を少  
し理解していただきたいと思うんですよ。学校の先生でも一般の  
人でもとにかく家を建てたために、小さな子供はほっぽりばなし  
で女房は日雇いで内職に行かなければならないという家庭。そし  
てその中でもって毎月々三百万借りれば二十年間で三万というの  
が基準になっております。そういうものを払っていく、かせいだ  
女房の内職はローンに返して、おやじがかせいできたところの幾  
らかを出してしまった、というような中で住宅にやっとか入った  
という人がずいぶん多いわけなんです。

そういう人がまた家を持ったために健康保険税も、また額は幾  
らかにしても、とにかく身をつめるような思いでもって内職をし  
ながらかせいで生活している人について、私は三百円でも四百円

でも年間上がるということについてはえらい問題だと思っ  
てます。この面をやはり単なる問題じゃない、家を持ったから金持ちじ  
ゃないかということでは割り切れない切実な問題があると思っ  
てます。私はローンでもって家を建てようと思っているけれども、  
そういうものがおっかなくて生活に見通しが立ちませんので、家  
を建てかえることもできませんけれども、そういう面をひとつみ  
ていただいて今後措置をしていただくことを要望したいと思  
います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 二、三質問しますが、昨年の六月は大  
体健康保険税についてのある程度のはっきりした段階ということ  
で九百万円ばかり保険税額が当初予算よりも減っているわけ  
です。ことしの四十八年度の保険税算定表によりますと、国民健康保険  
案分率の中に出ております課税額は二億七千九百九十九万四千円で課税  
総額がこれは当初予算と同じですが、六月の段階で変化はなかつ  
たのかどうか。これは当初予算でいきますと当然二五%の値上げ  
になるわけですが、そのまま変化しないのかということをお  
伺いします。

それから課税率の配分についてですが、所得割りに相当大きな  
ウェイトを置いたということでは評価できますが、ただいま辻田  
議員からもあったように資産割りについて七%引き下げられて  
おりますが、資産割りを引き下げたという点では住宅、そういう  
人たちについては一応納得できますが、前回四九%、固定資産に  
ついて問題があると思っ  
てます。要するに住宅として何らの利益  
を上げないような固定資産と固定資産が一定の利益を上げている  
というようなものではかなり大きな差があると思っ  
てます。当然



事業をして相当の資産をもって運営しているという方たちにはこれは所得もその中から生まれてくるわけですから、所得割りでウェートを落としたりとしても資産割りの面でそういう階層については前回の四九%でも差しつかえないと思うんですが、こういう資産のあり方といえますか、そういう問題について法的にはかなりむずかしいというようなお答えがございましたけれども、住宅とそれからそうでない資産とはある程度区別して資産割りをする必要があるんじゃないか。これは生活の実態からみてそういうふうになることが妥当ではないかということで、これをひとつ考えていただきたい。

それから均等割りとは平等割りがありますが、合計して千八百円の増額になるわけですが、均等割りは別としても平等割りという税のかけ方といえますか、これは均等割りと同じように所得と全然関係のないものであって、一応この案では四つのランクで所得割りを多く見ておりますから、その点では一般のあれとは違いますが、けれども、しかし家族の一人でも世帯割り、均等割りを合わせたいものを納めなければならないという点では矛盾があるとおもうんです。こういうものは制度ですからこうなっておりますが、均等割りや平等割りは一つにして均等割りというようにすることで課税するのが当然ではないかというふうに考えますが、こういう点はどうかなお伺いします。

もう一つ、この問題とは直接関係ないわけですが、関連して、質問する機会がありませんので、ここでひとつただしておきたいと思うのは、乳幼児の医療の無料化が五歳児迄無料化するという事は市長さんが新聞記者にも発表しておりますし、前回の全員協

議会の席でも当然三月に出すべき条例案が出ないので六月には出すということを約束してありますが、この六月の定例会にそういう条例案が出されてはいないわけです。こういうことについて市長さんはどのように責任を感じておられるのか。すでに予算が計上されておりますので条例として早く出す必要があると思うんですが、するする延びては市長さんが約束した点から言ってもまずいと思うんですが。これは保険税とは関係ありませんけれども質問の機会がありませんので、この際そのことをはっきりさしていただきたい問題でございます。

○市長（本間 謙君） 五歳児までの支給条例の件でございますがこの件につきましては六月の市会というのを申し上げたと思っております、いろいろ医師会との折衝を進めておって、それがまだきまりませんから、九月に間に合うように医師会との調整をはかろうかということ、今回は出しませんから、九月に提案したいと思いますが、御了承願いたいと思います。

○保健課長（綱島憲治君） 質問の第一点につきましてお答えをいたします。当初予算に、三月議会におきまして申し上げたとおり例年ですと当初予算のときに国庫補助金の算定が過去においてははっきりしない、内輪に組んだわけです。四十八年度は若干定期的に予算の作業が遅れました関係上その見通しがはっきりしたわけでございます。したがっていまして国庫補助金等については予想できるものを全部計上したわけです。したがってその後の情勢変化はない、こういうわけでございます。

○税務課長（越路良夫君） 第二点目の資産割りの問題でございますが、住宅等とその以外の場合に区分できないかという質問でこ



さいますが、これにつきましてはこの資産割りのもとになります  
固定資産税の中の土地、あるいは家屋でございます。その中で  
本年の地方税法の改正によりまして、土地のうち住宅用地につ  
いては評価額の二分の一を目途にしまして昭和五十年になればそ  
れになっちゃうわけですが、現在負担調整中でございますが、御  
趣旨のような住宅用地についての対策は資産割りのもとになる固  
定資産税においてとられています。

なお、均等割りとは平等割りの一本化の問題であります。これ  
は被保険者が一人いれば一人だけの受診率、あるいは五人い  
れば五人いる、それによってそれぞれの医療費の増加もちろ  
んどございましょうし、保険を利用する割合等もあるわけござい  
まして、やはりそういうものを加味し、現在のような均等割りと  
平等割りを合わせていくことのほうがなお均衡が保たれるんじや  
ないかというふうに考えております。以上です。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 市長さんにお尋ねしますが、乳幼児の  
医療費の問題ですが、三月には六月に出すということがその後医  
師会との折衝でそれができなかった、今度は九月の議会には出す  
というふうに終東がかわっていますが、九月の定例会にはつきりと  
した条例が出せるという見通しがありなにかどうか。約束して  
もまた九月になったら医師会との折衝がうまくいかなぬというこ  
とで延びますと十月一日実施するということが流れるわけです。  
当然予算の中に組まれているわけです。そういう点を考えますと  
御苦労なさっていることはわかりますが、次々と延びて条例案が  
出ないということになると問題ですから、その点の見通しをはっ  
きりお聞きしておきたいと思っております。

〇市長（本間 譲君） 市民にも約束してありまして、また議会の  
皆さん方にもお約束してございますから、九月には必ず出さなけ  
ればいけないわけです、また出します。

医師会のほうは、結局県のほうで長期に児童が入院したものに  
対する手数料を払うとか、県のほうでいろんなことを言っ  
ていますが、医師会のほうでもいろいろ協議をされてお  
りまして、私どもの要請をかなえていただけるものと思っ  
ております。かなり、かなわないにかかわらず、これは十月から実施するよう  
に条例を提案いたしますのでひとつ御了承いただきたいと思います。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑  
なしと認めます。

### 委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託  
を省略することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 討 論

〇議長（吉田勇治郎君） これより討論を行います。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 国民健康保険税条例の一部を改正する  
条例に反対する立場から討論を行います。

この条例では案分率を所得割りで三六%引き上げた点は前進面



として評価しますが、平等割り千二百円、均等割り六百円を増額した点は低所得者で家族数の少ない家庭では負担が多く、一人でも均等割りと平等割りを負担しなければならぬのは矛盾しているので均等割り一本に統一すべきだと考えます。

しかし、問題は保険税の値上げが四十七年度で二九%、四十八年度で二五%と毎年続いて保険税の値上げがあつて、一世帯当たりの平均が二万五千円ぐらいになるわけです。これは市民にとっては耐え難い負担になっています。したがつてこの大幅な値上げを認めたこの条例案に賛成することはできません。

日本共産党は療養給付費の国庫負担の増額、それから事務費の超過負担が依然としてあるわけですが、超過負担を解消するということで国民健康保険税をもっと引き下げるように国に向かって運動をすることを要求しまして、この条例案には反対であります。以上。

○九番(辻田 実君) この条例につきまして、特に三条の所得割りをふやしたといふことでございます。これにつきましては一画面持ちの人によく納めてもらう形のように受け取れます。しかしながら実際には上が八万でもって押さえられておりますから、そして昨年からことしにかけて物価が倍くらゐに上がっております。田中総理大臣は大幅減税をするといふことでもってたまげるような減税政策は打ち出してありますけれども、まだ国会は通っておりません、出すか出さないかわかりません。そういう中에서도所得税の大幅減税がまだかけ声だけでもって出ない段階でこの所得割りを出すといふことは、大体館山市においては百万前後の所得者、これらについてはかなり大幅に上がっていく。特に国民健

康保険税については会社員等を抜かした人が主でございます。となりますと農民と一般中小企業に勤めておるところの保険のないような所得者、これにかかる。大きな経営者、商売をやっている人については八万円のワクでもって所得割りが幾ら上がるが全然関係ないといふことですからこの趣旨が生かされないといふことでございます。

先ほどからも出ておりますように、そういう条件の中において五条の二といふことで均等割り、世帯割りの額が合せて基礎が千八百円底上げされておるといふことでございます。特にさっき申し上げましたようにやくローン等でもって住宅を買つた人、そういう住宅の固定資産税というものが大幅に上がっております。所得税と住宅は両方で上がっているわけです。

ちなみに、ことしの館山におきますところの労働者の賃上げというのは約一万二千円近くにベースアップされております。しかしながらすでに企画庁で発表されたところの四分の一半期ですが、上半期のあれにおいては一一%の物価の値上げがされていると、生鮮食料品、その他については二〇%以上の物価の上昇というのがすでに出ていふことが発表されております。国鉄運賃も上がるという状況の中において、所得がそのまゝ一〇%なり二〇%上がらなければどうしても生活できないといふことです。

また、所得税の減税措置といふんですか、まだ出されておらない、出されても秋の国会といふことになるとその執行といふものは先になつてしまふ。そういう中でこの改正はむしろ前のほうが中間層の負担、低所得者の負担といふものはなぬようなふうに受け取られます。したがつてこの面は数字的には金持ちに多く納め



てもらって、そしてどうかしていくということでございますけれども、私はその配分についてかなりそういう間違いがあるというふうに判断されるわけでございます。

私はどうしても八万円の止を抜かないと所得割りということについては、全く所得税をとられてしまう人についてはぐんぐん上がってしまった、かなり経営していて金のある人については八万円だから所得税が上がるが関係ございません。こういう状況になるわけでございますから、かなり、俗に言う言葉でもってしり抜けという状況になるわけでございます。

そういう面については保険税条例の改正については、配分について非常にそういう問題を多く残しているという点については賛成しかねる。先ほど来出ているような問題について今後善処してもらい、特に所得のいる田中さんが記者発表しているような形の大福所得税の減額、それから固定資産税についての特別処理の方針、こういうものが明らかにならない限りこの問題についてはやはり問題があって、こういう所得割りを上げるということについてはむしろ政府の方針を先取りした、むしろ悪弊になる。政府の所得税が提案されてからこれが出るんなら多少考える余地があるけれども、そういう点については非常に問題がある、税の問題についてはそういう先取りということについては私はあてはまらない。たとえアイデアでもこの先取りについては私はできない。むしろ逆に大幅減税がなされたのちにおいてゆっくりと所得割りを上げることがなされるべきが筋であるというふうに考えまして、私は一部改正については反対するものでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なし

と認めます。よって討論を終ります。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。  
（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたしますと思  
います。

午前十一時 四十分 休 憩

午後 一時五十分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第五十一号館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十一号 館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条

例の制定について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。御質疑ございませんか。― 御質疑なしと認めます。

委員 会付託の 省 略



○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第六、議案第五十二号館山市教育放送センター条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十二号 館山市教育放送センター条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） 本案を委員会付託並びに討論を省略して直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）  
○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第七、議案第五十三号市道路線の認定についてを議題といたします。

議案第五十三号 市道路線の認定について

### 質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） これに直接関係したことでないんですが、南町のあの国道が市道に編入されることについて、まだ国道に關係した問題で解決してない問題がありますので、その点ちょっとお願いがあるんですが。

あの道路の国道のまん中に黒川さんという人のうちがあったわけですが、国道をつくるときに国道期成会というものができて会長に飯塚薬局のだんなと江田徳太郎さんというような人たちがなつて代替地として金子 自転車の裏に家をひいたわけですね。その



土地は国道の敷地に売った場合には五千円で売って、代替地を買いのに一万で買って、三十五坪、当時三十五万円の金を期成会に納めて現在まで至っているわけでございますが、今日まだ登記をしなくてはならないわけで、その上に立ち退きをせまるといふようなことが起こって、実は問題になっているわけです。

市道に編入されるにあたって、国道をつくることの問題がいまだに解決してないような状態で困っている面があるんですが、この際市道を編入されるということで、こういうあと始末のついてない問題について市としてもそういう問題が、当時の約束が解決されるような助言なり援助をしてもらえるかどうか。この点ちょっとお伺いしたいんですが。

○土木課長（飯田治男君） その他にも今度市道に編入される道路についてもまだ登記未済のところもございます。そういった点は私どものほうでも県の土木事務所のほうに話しまして全部解決してもらいたいということで要望してございます。

今後、市道認定に際して、そういうものが解決されなければ、市道に認定できないからということで一応話もしてありますので、また今お話しの方ににつきましても土木事務所のほうに話しまして解決していただくように極力努力いたします。

# 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略し直ちに採決することに御異議ございませんか。  
（「異議なし」と呼ぶ者あり）  
○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。  
本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第八、議案第五十四号市道路線の変更についてを議題といたします。

議案第五十四号 市道路線の変更について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。御質疑ございませんか。  
― 御質疑なしと認めます。

## 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） 本案を委員会付託を省略し、並びに討論を省略し直ちに採決することに御異議ございませんか。  
（「異議なし」と呼ぶ者あり）  
○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。  
本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。  
（「異議なし」と呼ぶ者あり）



○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第九、議案第五十五号昭和四十八年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

議案第五十五号 昭和四十八年度館山市一般会計補正予算（第一号）

## 質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○二〇番（君塚喜三君） 四ページの債務負担行為の高圧洗浄車等借上料、これについてでございます。

今年度の予算において衛生費に自動車借上料として三百万円計上されていたはずなんです、そうするとこの高圧洗浄車の年賦額と申していいんじゃないかと思うんですが、これは千八百六十万円と解釈していいのか。この点まずお伺いいたします。

○衛生課長（館石勘治君） そのとおりでございます。

この債務負担行為の額が千五百六十万で、追加額でございます。三百万円は当初の額でございます。したがって都合して借上料として千八百六十万、こういうことになります。

○二〇番（君塚喜三君） もう一点お尋ねしますが、先ほどの問題に関連をいたすわけでございますが、市の開発公社のワクの問題、三億円のワクを広げてほしいということなんです、この問題に関連してお尋ねするわけですが。

四十八年度予算における債務負担行為として、道路橋梁など工事委託費として限度額において工事費二億三千万と取得に要する経費は挿入されておるわけなんです、そこでこの三月時点において市の開発公社以外に対して委託できる予想を立てることができたかどうか。この激しいインフレのもとで、工事は四十八年度にやってもらうんだ。支払いは四十九年度から五カ年で受託するところがあると予想されたわけでしょうか。まずこの点をお尋ねいたします。

○財政課長（長谷川広治君） お答えを申し上げます。三月時点では総枠程度でございまして、個々のものにありまして年度に入り検討をし、最終的にはその額を決定して公社にお願いする、こういうことも通年行なっているわけでございます。

○二〇番（君塚喜三君） だれが考えても激しいインフレのもとで工事は今年度にやって、支払いについては来年度から五カ年年賦だということを受託するということはちょっと考えられません。私は言いわけのためにおっしゃっているわけでもって、当然市の開発公社に委託するという考えのもとに債務負担行為としてただいまのような額が計上されたと思うんです。だとすれば、当然市の開発公社に債務負担行為にそのワクが、債務補償のワクが問題になってくることは当然わかることでして、それがわずか、それも長い年月たっているわけじゃございません。わずか三カ月しかたっておりません。三カ月においてこういうことが、委託事業のワクを広げるということは追加補正を債務の上で認めるということに等しいわけなんです。そうございましょう。委託事業として開発公社にやらせるといふとこれは追加補正を借金の上で認めてい



ることに等しいわけなんです。こういうことがなされるということとは予算編成の常道の上から言っても許されるものであろうか。私はこの点非常に疑念に思うわけでございますが、この点いかがでございますでしょうか。

○財政課長（長谷川広治君） 御質問ごもっともであろうと存じますが、ただ私どもの考え方といたしましては債務補償の総ワク即開発公社の事業総ワクではないというふうに考えておるわけでございます。その点から考えましてできるだけ債務補償の額は少なく、そして実質的な借り入れでできるだけ債務補償のない借り入れでどうかというような折衝もあったわけでございますが、最終的にやはり金融機関側で債務補償をというような気持ちも強いようでございますので今回お願いをいたしましたわけでございますが、次年度からはできるだけ事前の打ち合わせといったものをいたしまして、こういった場合には当初予算でできるだけ説明をいたしてまいりたい、かように考えております。

○二〇番（君塚喜三君） 了解。

○六番（栗原一雄君） 高圧洗浄車の借上の問題でございしますが、ただいまのお答えでございすると千五百六十万と、本年度当初三百万ということで千八百六十万ということになります。洗浄車とダンパーの両方の金額だろうと思いますが、これを一台買った場合どのぐらいの金額かちょっとお尋ね申し上げたいと思います。衛生課長（館石勘治君） 大体、購入価格でございすけれども、高圧洗浄車の場合には約七百万、下水清掃車の場合には六百五十万、それからもう一つ小型貨物車は百三万円、こういう価格でございす。

○六番（栗原一雄君） そういった数字でございすると、これは借上という考え方から申し上げますと買ったほうが安いんじゃないか、このように考えられます。

なお、私先般鴨川でダンパーを買ったということが新聞に出ておりましたので早速拝見に参ったんですが、一台二百九十万円、けっこう十分機能を果たしているという考え方から、そういった数字から申し上げても、借上額から計算しても七台は購入できるわけで、買ったほうが安いんじゃないかというふうな気がするんでございますが、いかがでございましょうか。

○衛生課長（館石勘治君） 鴨川の機械のほうはよく存じませんが、

れども、鴨川の機械とはだいぶ違うということはお聞いております。○助役（畠山 伝君） 私鴨川の見ましたけれども、鴨川のはバキューム車の大きいようなものでございまして、タンクがあって側溝の汚水を吸い上げるだけなんです。これは圧搾器で水を送って中を攪拌いたしましたして砂をとかしてそれを全部吸い上げて、砂と水を分離して水は側溝へ落として砂はダンパーへ積むということとで機械そのものの性能がずいぶん違うように思います。

○六番（栗原一雄君） 先ほどもう一つ答弁漏れがあるんじゃないかと思ひます。高圧車とダンパー、そういった車の借上プラスした金額と本年度三百万の当初予算、なお四十九年以降の五十一年まで借上料、そういったものの数字から考えると買ったほうが安くないかという数字も出てくるわけでございます。それに付いてそういうお考えはあるかお尋ねしているわけでございますので、それに対して御答弁していただきたいと思ひます。

○助役（畠山 伝君） 確かに現金でそうすれば安くなるわけでござい



ざいます。これは金利も入っておりますので……

○六番（栗原一雄君） 以上で質問を打ち切ります。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたしたいと思います。

午後二時十五分 休憩

午後二時十七分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○助役（島山 伝君） ただいまの説明でございますが、現金で買  
うのと相当開きがあるわけでございますが、これにつきましては  
金利につきまして大体平均五・五％ぐらいの金利になるわけでござ  
いますので、それで四カ年いしましてあとは大体ほんとうに安  
い価格で市のものに成り得る可能性もあるわけでございますので、  
一応そうした考えを合わせまして現金で買えばいいんですけれど  
も一応年賦払いで願いますものでございます。

○六番（栗原一雄君） 今回、この問題でございますが、日本リー  
スからお借りするというところでございますが、鴨川のは同じダン  
バーをつかって、なお高圧洗浄車をつかってやっておるんですが、  
それは千葉環境衛生、それからからお借りしたわけでございます。  
そういった何社かを聞きまして、少ない館山市の財源というもの  
を考へるならばもっと効果的な方法があるかと思ひますので、  
その点特に御研究いただきたいということで質問は打ち切ります。  
○一二番（藤田益治君） ただいまの質問に関連して御質問申し上  
げます。

この高圧洗浄車のこのような措置をとられた手段と、またこれ  
を借り入れた場合と買い上げた場合の比較検討をなさったか。

御検討なさいましたらその結果を教えてくださいたいと思います。

○助役（島山 伝君） 当初三百万ということで年間というよ  
うなことでありましたけれども、しかしこうして四年間リースに  
しますと三百六十五日買ったと同じようなふうに利用できるとい  
うふうなこともございますので、それで経費もかかりますけれど  
もこの際そういう契約にしたほうが有利だ、そしてこれにつきま  
しては地域の方々から早く来てほしいということや要望もござい  
ますので、この際町をきれいにすることや年賦でお願いし  
て買ったと同様な形で三百六十五日使用できるようなことにした  
いということでございます。

○一二番（藤田益治君） 私の質問の趣旨は買った場合にどのくら  
いの額になって、この場合双方の差額を検討なさったかどうか。

また、助役さんの御答弁でいきますと四年ということですが、  
四年でいいですか。四十九年から五十一年と書いてありますと、  
これでは三年間で千五百六十万を支払うと、こういうふうになっ  
ておりますが、そこらの二点について御答弁いただきたい。

○財政課長（長谷川広治君） 補足的に御説明を申し上げます。先  
ほど御説明申し上げましたように、これは追加というよりは実際  
に折衝した値段でございますが、千四百五十三万でございます。  
したがって四百七十万ぐらいが金利相当額ということに相なり  
ます。これはなおしますと平均金利五・五％程度でございます。

それから見積もりというふうなことでございますが、いろいろ  
機械につきましては四つばかりあるようでございます。そのうち  
三社を比較検討いたしましたので大体このものがいいようじゃないか  
ということと選定したわけでございます。



リース会社との関係でございますが、リース会社も多くあるようでございますが、たまたま日本リースの關係の代理店と申しますか、それが八幡にございますのでそこを通じてやったほうがアフターサービス等の關係から一番いいんじゃないかというような關係から一応選定したわけでございます。

〇一八番（安西益男君） ちよっと伺います。いまの問題ですけれども私も納得できませんので。どう考えても買ったほうが得だということとはよくわかるんですけど、いろいろ御検討なさっていると思いますけれども、そこで何年ぐらい洗淨車がつかえるかということ。五年も十年もつかえればはるかに買ったほうが得だし、使用年限が三年か四年だということになればまた考える必要があると思いますけれども、どのぐらいの見通しがあるか、その車がかかるかということについて。

それから、これは作業をするのに何名ぐらいの方、作業員が必要か。さらには、車と一緒に向こうで来てやるのか、あるいは市の作業員によってやっていくのか。そういう面でひとつお願いいたします。

〇財政課長（長谷川広治君） 車の使用期間についてお答え申し上げます。作業員については衛生課長より申し上げます。

車の耐用年数といいますが、いろいろ稼働によって相違をするようでございますが、大体最初に折衝いたしましたときには多少の修繕費をかけかけていけば八年程度はそう大きな修繕費を必要としないというところでございます。

ただ車でございますので、一応学問的な立場でと申しますか、理屈の上からいって九年度だろうと思いますが、八年程度は大きな

修理費を出さなくても何とか使用できるんじゃないかというようなことでございます。

〇衛生課長（館石勸治君） 作業にたずさわる人でございますけれども、これは市のほうでやります。

それから人員でございますけれども、大体一つの車について二名程度考えております。以上でございます。

〇一八番（安西益男君） 耐用年数が八年ということでございますので、先ほどの助役さんの説明ですと四年ぐらい経つと大体あとは何とかなるのじゃないかというよりなお話でございますけれども、その点ははっきりしておりませんと四年経ってまたさらに同じような借り上げ料、また買うにしてもこれだけの金額を出さなければならぬということになりますと、また今後問題が出てくるんじゃないかと思いますが、その辺の見通しについて。

〇財政課長（長谷川広治君） 現在の交渉過程で申しますと、五年の終る時点即五十二年度の始期ということになります。その時点で五、六十万程度で三台とも市のものになるという交渉を重ねておりますが、私もそれを契約条項に入れたいと申しますのは、いまだすから年々機械が新しくなっています。しかも高額のものとございますので、はっきりそうしたことをしてしまつてどうかと、むしろ様子を見て、それがよければ五年目に五、六十万程度で市のものに購入をするというほうが無難ではないかということから、一応現在は下交渉程度でとどめてございます。

〇一八番（安西益男君） そういったことは検討されて使えるというところでございますので、鴨川の例からするとけっこう使える



ということになりますので、これだけ高級な車でございますので八年つかえるものはそういった契約をしてもいいんじゃないかという気がするんですけども、その時点になってまた変更になりますと新たな高額の金を出さなければならぬわけですから、そういう点を確認しながらやっていただきたいということをお願いするわけですが、これはさっそく近いうちに稼働することになっておりますか。

○財政課長（長谷川広治君） 御決議をいただければさっそく発注をいたしまして、できるだけ早く納入をしていただけるように手配はいたします。

○一八番（安西益男君） 了解。

○三番（流山源次郎君） 関連してお聞きしたいんですが、高圧洗浄車の活動といいますか、私の知っている範囲でございますが、実は船形地区の漁港の近くにおきまして下水道が十年来つまってしまった、それが結局消防車によって散水してもらってはどうしようもない。そういうところがまだ館山市に相当あるのかどうか。そういった特殊なところを今度購入した洗浄車におきまして清掃したあと、やはりその洗浄車の配置する人員をきめまして、年間定期的にそういったところの行事を行なうのか。それとも、またそういったつまってきたところが出てきた場合に動かすのかどうか、それをお聞きしたいと思います。

○衛生課長（館石勘治君） 船形の御指摘のところは私よく存じませんが、そういうところとそれからふたのある下水道、こういうものに非常に威力を発揮しますので、さっそく入手いたしましたらかかるうと思っております。

それから、この使用につきましては、年間計画を一応立てる予定でございますので、逐次回りながら市内をやっていくと、こう考えております。

○三番（流山源次郎君） 大体わかりました。私がここで要望したいことは、先般ごみの焼却場の中にガラスなんかの碎石機がないということ、やはりこれは昨年だと思えますが衛生課の要望で高い金を払って機械を取り付けた。ところが、現在になってみると規模が小さいということでほとんど使用してないというような現状があるんですが、今後せつかく高額の金を払っての洗浄車でございますのでそういったことも二度とないような十分な活動をお願いしまして、私の質問を終わりたいと思います。

○九番（辻田 実君） この開発公社の債務負担行為の増額の問題についてちょっとお伺いしたいわけでございますけれども。先般の説明ですと二億三千万の道路舗装負担金の増額をするためだということの説明があったわけでございます。そこで現在の開発公社の十億の債務負担のワクの中ではどうしても操作できないかどうかということでございます。と申しますのは三月の議会において私は当然現在の開発公社との関係の中をもってワクを広げなくともできるというふうに判断したわけでございます。その点については質問しなかったからできるできないということは執行部のほうでは説明もなかったわけでございますけれども、しかしながら当時はまだ決算ができてないということでもってその面で保留されたと思うわけでございますけれども、それについて私はかなり問題があるんじゃないか。決算を見ても要するに現在剰余金とございますか、正味財産が三千万あります。そして現実の借入金と



いうことで八億七千二百万という額があるわけでございます。さらに財産目録等を見てまいりますと未収金、売掛金が一億一千五百万円というものがございます。そしてこの負債の部のほうの借入金金を抜かした負債部分を払っていてもこの未収金の売掛金等がある程度解消していくならば、私はこの予算書に出てくるところの予算というか、開発公社の事業計画書に出てくるところの収入五億四千二百万といううちの基本的収入二億六千万ということになるわけですか、ここに関連してくると思いますけれども、この程度の金というんですか、十億のワク内でできるんじゃないかというふうに思うわけでございます。私も開発公社の理事をやめてしましまして理事会では発言できませんけれども、私は四十七年度の決算等を見ていって道路の舗装について二億三千万、現在の決算の中でもこの未収金、さらに負債の面等の運用の中もって私はできそうな気がするわけでございますけれども、こうした点については検討されたと思うわけでございますけれども、その点についてはどうしても見込みがないのかどうか。この点についてお伺いしたいと思います。

○企画部長（伊藤幸太郎君）　ただいまの御質問でございますが、公社の四十八年度の運営につきましては年度当初に事業計画を立てまして、大体その計画に基づきまして仕事をしているということは御承知のとおりであるわけでございますが、たまたま経理の面でこの五月末をもって一応私どもは今後一年間の試算をやってみたわけでございます。ただいまは決算からのいろいろ御指摘もございましたけれども、実際今度は資金の関係と資産を五月末を基準にしてはかってみたわけでございます。といえますのは五月

の末までの間に市のほうからの返済等もある程度ありましたのでそれらは全部トータルいたしまして五月の末をもって本年度の資金計画を一応立ててみたわけでございます。

その面からいたしますと、五月末の各事業ごとの総計の借入金額、これを試算いたしますと約八億円弱でございます。五月三十一日現在におきます借入総額が約八億円弱という数字に相なっております。さらにこの事業計画につきまして今後新規に借入を予定されるもの、そういったものを一応ふんでみますると約一億八千二百万程度、これはあくまでも四十八年度として新規に借入したいという予定のものでございます。といたしますと、約ここ九億何がしかの資金ぐりというような試算になりますので、この中で先ほどお話の出ております土木関係の債務負担の二億三千万のワクが非常にこれでは無理だ、とうていいまの時点におきましては無理だという数字に相なったわけでございます。

ただし、その中に手持ちの財産、いわゆる資産のうち売却等によりまして入ってくるものが出ますれば若干この数字も狂いは出てまいります。しかしながらいま申し上げた五月末の時点におきましての試算の上では、いま申し上げたとおり二億三千万の舗装負担行為ははまりにくいというような見方でございます。そういう意味でございますので今回特別にお願いいたしましてこの舗装関係の債務負担を受けるという目的に三億円の範囲内で損失補償の額をお認めいただきたいというお願いを申し上げているわけでございます。

○九番（辻田実君）　私は非常に提案の仕方について、ことばは荒くなりますけれども、卑屈な提案の仕方だというふうに見



られないわけです。というのは十億のワクというのは何年も前からきまっているわけです。それを平砂浦の土地を買ったり、一中の土地についても見通しが立たないままに延期になっている。すでにことし着手するということでもって売却済んだものが防音校舎その他の問題でもって一年遅れたということになっている。さらには温水プールの工事によって中央公園の土地を買収して、あの土地も焦げついている。そういう責任の中で十億の金を全部にはたしてしまつて、ここで道路を舗装しますからということ、その道路の舗装ということでもって開発公社にお願いして負債でもってやります。債務負担でやりますということ、そのときには三億をその時点でもって私は出すべきが、これが世の中の筋道でございます。そして市民が最も困っている、切実に要求しておる道路の舗装問題を相手にとって、これを出さなければこれはできませんよという言い方じゃございませんか。これでは私たちを言うこともできないというところに追い込んでおる。

こういう形でもって開発公社が市の債務負担というものを扱うということになれば私は非常に問題があると思う。いまのこの時点になってきて、私はここでもってこの問題については慎重を期してもらいたい。ただし道路がここでできなくなつたということになると非常に大きな産業、経済、さらには通学、市民の生活に影響が出てくるわけでございます。したか、しないかが市政の重要なポイントになってくるわけです。

三月の予算は通つちやつたらさかのぼつてできない、組みかえ動議をしてもこういうような形でやるならどっちでも同じわけです。一般会計の当初の中でもって二億三千万直営事業でやればい

いわけでございます。しかしながらあの時点では十億のワクの中でもってやりますよとは言わなかったけれども、しかしながらその点についてははっきりしておらなかった。当然あの時点でこうした事態が出てくれば同時にやはりここでもって三億の開発公社のワクをふやすということを提案するのが普通じゃないかと思うんです。ですから卑屈な方法としか言いようがないということでございます。

いま聞いてみますると、現にこれを承認しなければ道路はやりませんからというような腹が答弁の中に見えるような気がする、私のほうにあるからそういうふうに移るのかもしれないけれども、私はやはりようによつてはいま言つたように、たとえば未処分土地、総合グラウンドをつくるかどうかは知りませんけれども、神戸のところにしたってしっかりでございます。それらの焦げついたところの額が数億にのぼっているわけでございます。二億三千万以上の金があるわけでございます。私はそういうことになってくれば、私はそういうものは議会について十分に計画をしてない中でもって、ただこういう形でもって出てきて、とにかくそれはやつてしまつたことだからしやうがありません。五月三十一日現在でやりますと九億八千二百万程度の借入れをしなければできません。したがつてここにあとワクというのは八百万しかありません。八百万では道路はできませんよというふうなこういう押しつけであつたようにしか受け取れない、議会としては。

私はこれは同時に三月議会で債務負担行為としてやると、債務負担行為は開発公社に委託してやります、それについてはまあある程度認めただけでございます。道路の問題でございますから。



だけれども、そのときにはこういう問題というのはある程度明記してはつきりさせないと問題があるんじゃないかと、そういう姿勢について私は非常に遺憾なわけでございます。この点については市長はどのように考えておられるのか。提案された方といたしまして。私はほんとうにことばに言いあらわせないものがあるわけでございます。その点についてひとつ納得のいく御答弁をいただきたいと思うわけでございます。

○市長（本間 諒君） 損失補償額をお願いするということは、やはり大きな問題になるわけでございまして、私は現在の小沼、その他にある土地を処分して何とかやりたいという考えをしておったんですが、まだその土地の処分がいろんな関係でもう少し先にならなければ具合が悪いということが二、三あるわけでございまして、それをお願いするんですが、いまの道路の二億三千万円以外に西岬と館山と船形の公民館ですか、これが三千万円お願いしなきゃならぬという面もあるわけでございます。

それからいろいろ九億何千万という十億ですが、その中には実際にお願いしておるためにたとえば藤原の地所にしても約五万坪、いま売ったならば土地会社じゃないから利益を目的ともしませんけれども、私はいいい時期にあれを買ったとほめられてもいいんじゃないかとさえ私は考えておるんですが、とにかく地所を持っているということは最近における土地の値上がりを考えますときわめて適切なことであつたと考えております。しかし債務補償をなるべくしないようにしなければならぬわけでございますが、利息を払ったにしても私は相当地所については処分価値があるというふうに考えまして、今までお願いしてあつたわけ

でございます。三億の損失補償を御了承いただけるならばなるべく適当な時期に現在持っている土地を処分して三億を解消するようには私はつとめてやってまいりたいと思うわけでございますので、いろいろ内容はわからない市民の人やなんかでは大変大きな額とお考えなさるけれども、時価で売れば土地会社だとすれば大きなものになるけれども、それだけ市が財産を確保しておるといふことになろうと思いますが、ぜひいまの三億円の補償をしていただいてもなるべくそれをたくさん借りないようにつとめて土地を時期がくれば処分して、そしてやっていきたい。

いま大きな問題は小沼の地所、あれが八千坪、あれをまとめて売ろうと思つてゐるんですが、中に他人の地所があつてそれを買ひ取つて、まとめて市の要望する業者に入札で売ろうとしておりますが、それがまだ飛び地があるのを売買ができておりませんし、そういう問題がありまして私はこの問題については非常に心配をして早く返済するものはしていくことがいいと常に考えておるわけでございますが、ぜひひとつそういう意味でございましてから御了承をいただきたいと存じます。

○九番（辻田 実君） 私は、ここでもって三つぐらい疑念があるわけでございますけれども、いま言つたようなことがらでも、いま市長がおっしゃられた中に鳥久のあとの問題にしてもああいう土地は市の開発公社でもって扱うということについては私は非常に問題があると思います。一般の不動産業なり、そういう人たちが扱うべき性質のものじゃないかと思うんです。開発公社は少なくとも館山市の公共用地の確保、そして公共目的をしたところでの土地分譲、都市計画に基づいたところの土地分譲、こういうのも



のをやるのが本質じゃないかと思うわけでございます。それがあの土地については当初から市については施設をつくとか、学校をつくとか、大きな都市計画でもって住宅をつくとか、そういうものがなく、とにかく買って適当に売れば少しは利益が出る開発公社がもうかると、こういう形の利益を得る手段、これは一般の土地会社と同じじゃないですか。こういうものはそこだけじゃなくて何カ所か随所に見られる気がするわけです。私はこのことは開発公社そのものについて非常に他からも不信が出ておる、開発公社は真の公共のためじゃなくて、そしてそのためかなり泣かされているところの不動産の業者、そういうものがあると言われておるわけでございます。私はこの際そういうたぐいのものというのは処理して、やはりこういうものを保持しなければならぬんじゃないか、その点がまず第一点。なされなければならぬんじゃないかということをご希望したいわけでございますけれども、その点について第一点。

二番目は公民館を三つ建てる。開発公社でもってやるんだというところでございます。公民館はどうしても必要でございます。この三つを中心にしてさらに公民館は建てていくんだということを言っております。今後また公民館をまた来年二つ建てるんだ、また道路をどうやるんだという場合にはこれは開発公社がやりますから、金がないから開発公社また一億ワクを広げてくれ、こういう形でもって行きあたりばったりにこういうワクが出てくるんじゃないかという点でございます。こういう形のやはり公社の運営とそれから市との債務負担の関係というものはあつたんじゃないかというふうに思うわけでございます。少なく

とも市長が開発公社の理事長になるということが規約できまつておるわけでございますから、少なくとも市長はそういう立場に立つて向こう三年ないし五年ぐらいの長期計画を立てて、館山市の中には下水道はこうしてやる、道路はこうしてやる、公民館はどうする、さらには学校はどれだけ建築する、それに対するところの財政収入がどれだけあつて、どれだけ足りないから開発公社についてその分を補ってもらわなければならないんだという、そういう見通しぐらいのものを立てて資金計画を市の長期計画というんですか、少なくとも三年ぐらいの計画を立てて、その中でもってどうしても何億の債務負担行為を開発公社でもって確保してもraitたいという形でもってやられるべきじゃないか。今度の場合にはそういうものが見られない。とにかくそういう公民館とか道路とか、きょうにでも必要な問題があつた場合に議会として否決できないだらうからということが出てくるという、これは行きあたりばつたりの方式と言わざるを得ないんじゃないかと、こういう形でもって開発公社と市の債務負担行為のかつこうというものは問題があるうと。私はこの点については三億負担することによって市のそういうた来年、再来年の少なくとも三カ年間ぐらいの見通しはついておるのかどうなのか。今後三カ年ないし五カ年にわたるところの、若干の見通しのついたところの財政計画は開発公社の債務負担は三億でもって足りるのかどうなのか。そういう見通しが立ったのか、それともさっき言ったように行きあたりばつたりの足りなくなつたから出したもつた、また場合によっては近々の金が出るかもわからないということなのか。ただしそういう計画を立てても物価の上昇、そういうものによって何%か上がっ



たので計画が狂ったから物価の上昇分だけを上げてくれというん  
ならわかりますけれども、こういう形のものというのはあまりに  
も議会と開発公社の関係というものは今後に悪例を残すんじゃな  
いかと。どのぐらいの三億のものは見通しがあるのか。ことしの  
道路と公民館だけなのか、来年の学校とか公民館、そういうもの  
については開発公社を利用しなくてもいいものか、そういうこと  
ろについてお伺いしたいわけでございます。

第三番目として、先ほど財政課長の答弁にありましたけれども、  
普通一般の事業体というものはこれだけの財産があればそれを担  
保にして資金繰りをするのが普通です。いまの方式でいきますと  
と財産を取得し事業をやる。こういう財産が九億六千四百万何が  
しというものがある。こういう財産がありながら中には担保に  
入れられないものがあります。しかし一般の場合には売り掛け金  
とか、そういうものが少しでもあると、決算書を見てそれじゃこ  
れに対しては五億や六億、九億の資産があればこれに対してどこ  
の銀行だって貸すわけであります。同額ぐらいの資産に対しては、  
それを一部始終この資産に対して銀行から金借りて、一部は担保  
に入っているでしょう、その上にこういう資産がありながら全額  
借務負担を。契約書を見えますと、履行ができなかった場合に  
は六カ月後に融資機関において消化しなければならぬという  
義務を負う、こういう借務負担行為をくっつけて事業をするとい  
うような商売はどこにもあり得ません。なおかつ全額を、三億ぐ  
らいのものをやりくりするのについていちいちこういうふうにや  
っていった借務負担をやらなければできないということについて  
はすこし経営の方針については考えられないか。十億をこえて十

二億になっても、しかしながら財産目録を見ればこれだけの財産  
があるんだからすぐ処分します、売り掛け金はすぐ取ります、し  
たがってきれいに返しますからひとつ議会のほうに承認を得るま  
でもありませんからこれを担保にして貸して下さいという形の金  
融機関との折衝はできないか、それでもできないということにな  
ると金融機関というのは市に対してきつ過ぎる、ことばをかえれ  
ば甘ったれ過ぎるという状況じゃないか。私も労働者の金融機関  
でありますけれども、そんなに金融機関というのはしつこく補償  
を要求するということはありません。これについてはどう考えて  
おるのか。

私はこの三点についてお伺いしたいと思います。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 土地の購入の一般的ないろいろの御  
意見をお聞きしたわけでございますけれども、これはいろいろ見  
方がございましょうと思いますが、現在公社の所有に帰しており  
ます土地につきましてはそれぞれたとえば観光的施設を誘致した  
い、あるいはまたそういうものをもってまいるには非常に場所的  
にもよろしい場所じゃないだろうかというような観点から、ある  
いはまた公共用地の関係、またさらにはそれに付帯しますところ  
のいろいろの観点から考慮されるところの土地の購入、それから  
また住宅団地をつくるための市独自の土地の購入、それぞれある  
わけでございます。御承知のとおりあるわけでございますが、こ  
の土地の購入につきましては、やはり私どもは一つの目的を明ら  
かにいたしました地元の地主の方々と折衝をし、いろいろ交渉を  
進めた上で取得したものであります。でありますので土地の処理  
につきましてはやはり目的に沿ってできるだけ効果的に使ってい



ただけるような相手方を見つけて処理していきたいということで原則的には考えておるわけでございます。でありますので、そういう意味で若干購入してから期間が相当経っておるものがあるわけでございますが、その理由といたしましてはいま申し上げたようなものにあるわけでございます。そのように私どもは考えてやっているわけでございます。

それから金融機関との関係でございますが、これは御説のとおり一概に申し上げれば市の債務負担、いわゆる損失補償の補償がなくてもそれにかわるべき担保物件なり、あるいはそれにかわるべき信用担保なりいろいろのものである程度の借入はできるんじゃないかというお話のようでございますけれども、それはそのとおりだと考えております。しかしながら公社の仕事の大部分が、まあいろいろ御批判もあるようでございますけれども、やはり公共的な仕事の関係の深い仕事を現状では相当やっておるわけでございますので、これはあくまでも私どもとしてはこのような方法で目的をはっきりさせた上で借入もしたいし、さらにまたワタの問題につきましてもいろいろと御相談もした上でやってまいりたいというようなことも含めまして損失補償をお願いしたい。それから金融機関側になりますと、やはり大部分いま申し上げたように市との関係の深い、また市にかわってやっている仕事も相当大部分あるわけでございますので、金融機関の立場からしてもひとつ議会の御了承を得て損失の補償の議決をぜひお願いしたいというのが金融機関からの申し入れであるわけでございます。それにこたえましてこのような措置をお願いしたいというところであるわけでございます。

○財政課長（長谷川広治君） 館山市から公社にお願いするような事業の関係でございますが、当初に申し上げたと思いますが、市長の方針に基づきます市道舗装、これは一日も早くというようなことから特に債務負担で公社にお願いをするということによってまいってきたわけでございます。したがってこの事業が終了すれば道路関係につきましては大部分がなくなるというような計画でございます。

ただ特殊な大きな事業費を要する道路等におきましては、年度間に計画をいたしますので、二件はあるかもわかりませんが、いまのような事業費は公社には委託をいたしません。

それから三カ年程度の公社に委託をする事業でございますが、本年から公民館の計画的な建築をしようということで計画をいたしましたわけでございますが、これが来年度に入りまして予算編成の時点で一、二お願いをするかもわからないという程度でございます。

あと私どもが予測しておりますものは運動公園の関係でございますが、これはまだ構想の段階でございますので、私どもの財政予算表の中からははずれておりまして、そういうものがある程度目安が出た時点で財政計画の補正をいたしてまいりたいというように考えております。

○九番（辻田 実君） 大体わかりましたけれども、今回の問題については道路の舗装ということが主目的で、公民館ということでございますから、この点について了承をいたしたいと思っております。私は早急にそういう新計画については若干の長期的なものを出していただきたい。



先般の全員協議会の中でも、って館高の用地買収について云々、造成費も開発公社でやるんだ、これだって具体的に仕事が進めばいまの話を聞いてみれば相当の額を一時にしろ借り入れてやらなければいけない。企画課長の答弁ですと資金の一般的な融通はできるだけ遠慮してもらいたいという金融機関の話がある、できるだけ議会の承認を得て、そして債務負担というものをつけてもらいたい。またそのときになると館高の買収、埋め立て云々、県から金のくる間、これは何カ月か何年になるかもわかりませんけれども、それもまたふやしてくれ、そのつどそのつどというような傾向が私は出てくるんじゃないかと思えます。館高の問題をどうするかわかりませんけれども、私は少なくとも市長についてはそういう計画は三年くらいまでの見通しはつけないながらある程度そういう資金計画というものをを出しておいて、開発公社のワクを取りかえるという、出せば通るんだということじゃなくてこれをかえるときは慎重を期して長期の見通しを立てながらワクを広げるという形をとっていただきたい。そのつどということじゃ私はこの性格が問題じゃないかと、この点について私は要望いたしておきたいと思えます。

それから第二点目といたしまして八ページと六ページの収入、支出のうちの一般寄付金の問題でございますけれども、北条小学校創立百年記念図書購入寄付金でございます。これについて私は市長さんに特にはっきりしていただきたいんですけれども、いまから七、八年前にこの議場におきまして市長さんは学校行事の中において記念行事関係は絶対しないということについて何度も答弁されておるわけでございます。たとえば二中の全国優勝記念プ

ール云々の問題、神余のプールの問題、出たものに端を発して、あるいは最終的には記念事業じゃなくして必要だからやるということ、今後記念だとか、何かのことでもってプールとかそういうものはやらない、前例を残して教育上に問題があると、ひいてはそれがP・I・A負担の問題、その他にあるということでもってむしろ私は当時は二中のそういうような問題には関係がありましたから促進に行ったときに市のほうについては非常にその点については記念行事はやらないという市長のき然たる方針があったわけでございます。その後最近までそういう記念行事にかこつたところの学校建築、プールだとかそういう問題が見当りませんでしたことはやはり市長の所信というものが貫かれていたと、確かに学校教育の中においては記念行事によってやるところ、北条小学校は百年記念でできるかわかりませんが、館山小学校、その他もみんな百年に達するわけでございます。できない学校はどうするんだという問題がある、教育委員会においては館山市の教育の中心は教育の機会均等ということが第一に上げられております。いつの施政方針にも出ております。そうすると北条小学校は記念行事もできる、鉄筋にもなっている、ガラスもはまっている。片方は危険校舎でもってガラスがぶっかけてもなおせない学校が点在している。こういう中でもって市長自身が記念行事を奨励するような形の寄付金を行なうことについてはどういう本意なのか。今後は記念行事について認めていくのか。この種の問題については各F・I・Aで何々の記念でもって校庭を拡充したい、やれ校舎を建築したい、理科学験室を造りたいという要望ができた場合に、これは市長自身がそういうものを押えてきたのに額、内容



は別にしても、このことは既成事実として百年事業としてここに  
き然たるものが出てくるということはこれは市長さんの耳に入ら  
なければ別として、市長さん自身が市の方針、議会との討論、や  
りとりという過程を変えるような形になるので、その点市長さん  
についてはそういう方針の転換があったのかどうか。今回奨励  
していくのかどうか。この点について。

○市長（本間 譲君） 辻田さん、あなたのおっしゃる記念行事を  
やらないということと言った覚えがありません。どう受け取った  
か知りません。そういうことは言いませんよ。学校の寄付とかあ  
るいは校舎の寄付、PTA会費なんか取らないことはいいいとい  
うことを言ったけれども、百年という歴史の中で記念行事をやる  
いうことは学校側が言っております。市でやれと言ったわけじゃ  
ないけれども、そのことはいいいじゃないですか。私は記念事業を  
やらないということと言った覚えはないですね。それくらいのこと  
とはいいいじゃないですか。百年祭をやるということは、まあひと  
つあまりこまかいことは言わずに了承して下さいよ。喜んでやっ  
ているんですから、そんなに金をかけるわけでもないと思います。  
また金もあるわけではないでしょうから。あなたのおっしゃる父  
兄負担の軽減の面から言っても尊重しなければいけないと思いま  
すよ。しかしながらあの程度なら、私は内容は知りませんけれど  
も、学校でも会費を取るようになったし、五十円以上はまずいと  
いう指導は私はやっているわけです。活動費として五十円以上は  
まずいということは申し上げておりますけれども、いろいろ御意  
見もあろうかとおもいますけれども、あなたのおっしゃることも  
貴重なことでございますが、なるべく父兄に負担をかけないよ

うにすることということが狙いでございますから、その方針で教育委  
員会のほうでもやっていたいただきますので、ひとつ御了承いただ  
きます。

○九番（辻田 実君） 市長さんそういうことはいいいとかおっしゃ  
っている。あとで会議録を見てもらえばわかることでもって、記  
念行事にかこつけたところの校舎建築とか、そういう記念事業、  
そういうものについてやらないということを当時各筋の議員から  
も、私のほうからも出てやりとりがあったわけでございます。む  
しろそのころは記念行事にかこつけてもやってもいいんじゃない  
かということが私のほうの意見であつたわけでございます。私は  
記念行事がよいとか悪いという問題は言っていないで、私はそ  
ういう方針でいくことで教育というのはそういうきびしいものか  
なと解釈しております。各地区にもそういう記念行事にかこつ  
けて何々したからという形の中でやれ体育館をつくるなりとい  
う形のものがかなりセーブされて、公平な立場において必要に応じ  
てやって非常によかつたわけであります。今度の北条小学校の  
記念行事がよいとか悪いということは一つも思っておりませんけ  
れども、ただいままで市長さんの流れの中でもって私はそういう  
記念行事によって、記念行事だということを起点にして学校施設  
をつくるということは当時しておらなかったというふうに判断し  
ておつたわけでございます。今後はいま言われたようにいいこと  
だということで私のほうも共鳴することでございますから、今後  
そういうことでやられていく方向であればいいわけですが、その  
点を確認したかった、市長のいままでの経過と今度は矛盾したか  
っこうでとられたわけでございます。その点ひとつ誤解のないよ



うにお願いしたい。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 公社の債務行為の三億に関連してちょっとお聞きしたいんですが、さっき辻田課長から出ましたけれども四億一千万円の売り掛け金があるわけです。これは回収できる金だと思ひますが、公社の事業計画によると道路の舗装費が約一億六千七百万、こういう公社の道路舗装の事業計画が出ているわけです。二億三千万というのが大体道路舗装の予算に使うというふうなことだと思いますが、債務負担行為と比べると債務負担行為のほうがかなり多い額になるんですが、ここらはどういうふうに考えておられるか。道路舗装の事業計画というのは三つ出されておまして合計して一億六千七百万円、売り掛け金が四億一千万円あるわけでございますから当然この中でまかなえるものだというふうにこの面では見られますが、さらにその上に二億三千万の道路の舗装費が必要なのかどうか。それが事業計画の中には一億六千万円も上回る二億三千万というふうな事業計画にはなっていないんですが、その辺はどういうふうなことになるのか。

○企画課長（伊藤幸太郎君） ただいまの御質問は四十八年度の公社の事業の中の問題だと思ひますが、当初計画されております舗装の問題は、これは御承知のとおり役所の年度末は三月一ばいでございます。それから公社もまた三月一ばいでございますので、四月以降に舗装工事に支払うべき金というのは五月一ばいまで入るわけでございますので、四月一日からのものにつきましては三月三十一日現在の決算の中では締めくくりができないわけでありまして、でありますのでここに記載されております六千万何がじの舗装等につきましてはいま申し上げたやうなことで四月一日か

ら支払うべき四十七年度分のものでございます。でございますので今回お願いしてございます舗装の關係は御決定いただければさらにこの計画を補正いたしまして、理事会にはかつて補正をしてまいりたい、そういうふうに考えておるわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） これは四十八年度の事業計画というのと、四十八年度全部の事業計画ではないんですか。私はそういうふうに事業計画はまたわけですが、この中では市道の舗装事業は九千万、六千万、湊団地の造成一千七百万と合計一億六千七百万あるわけです。これが四十八年度の舗装事業計画、こういうふうに見られるわけです。だからこれは何も三月三十一日までのということではないと思ひます。四十八年度の事業計画ですから。ただ決算のほうではこれは売り掛け金が四億一千万ありますけれども、三月三十一日現在で五月までの、この中にはこれが入っていないかもわかりませんが、一応資金計画としてみる場合にはこれだけの事業をやるのに売り掛け金というふうなものを、未収金というふうなものがある程度みていると思うんですが、この数字でみると何も三億円の債務負担行為をしなくてもまかなえるような数字に見えるんですけれども、そここのところがあまりはっきりしないんでお聞きしているわけです。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 舗装の件につきましてはただいま申し上げましたように、これは四月一日から四十七年度分の、役所のほうの關係の四十七年度分の舗装工事に對する支払い分でございます。これはおわかりいただけだと思いますが、役所のほうは御承知のとおり五月一ばいまで支払い期間になっておりますけれども、公社は三月三十一日ではっきりと區別して出しますので、



当然四月一日以降四十七年度分の舗装工事の支払いがあるといたしますれば四十八年度の事業計画書に繰り込まざるを得ない、そして支払いをしていかなければならないというわけでございます。

それから売り掛け金の問題でございすけれども、これは大部分がやはり役所の関係の売り掛け金でございす。舗装工事、あるいはその他のいろいろ委託を公社が受けておりますところの仕事に對します売り掛け金でございす。そのほかに若干公社独自のものもございすけれども、多くはそのような状況でございす。

それから申し落としましたが、同じく事業計画書の中で湊団地の舗装がございすけれども、これは市道の舗装の問題とは違ひまして団地内の舗装をしよう、引き当てもしてございすので舗装をいたしたいというようなこととございすので、合わせて御了承いたしたい。

○一〇番（渡辺軍治郎君）　ただいま事業計画は、これは四十七年度分の残りの分だということとございすますが、二億三千万の舗装費をまかなうために三億の債務負担を出してきているわけとございす。当然この事業計画には四十八年度の事業計画とすれば理事会でそういうものをきめて当然載せて、それをまかなうための資金計画というものをを出してくるなら話はわかりますけれども、理事会でそういうことを決定してないということなんです。やはりそれが問題じゃないかと思ふんです。

○企画課長（伊藤幸太郎君）　ただいまの御質問でございすますが、これは先ほども申し上げましたが、この損失補償の点を御了解いただいた上で新たに理事会を公社といたしましてはお願いして、そして二億三千万の舗装工事、四十八年度の舗装工事の受託を理

事会にはかった上でいま申し上げておりますところの事業計画も補正してまいりたいという考え方で進めておるわけでございす。でございすので、いまお出ししてございす事業計画の中のほかに二億三千万の舗装工事は上のせするということになつて相なるわけでございす。

○二〇番（君塚喜三君）　先ほど一点聞き漏らしましたので。市の開発公社に対する損失補償のワクの問題に関連しまして追加して質問させていただきますが、四十七年度の当初予算で債務負担行為として道路改良舗装工事委託費として限度額で工事費二億一千二百五十四万と取得に要する経費が承認せられて、実施の結果については過ぎた八日の開発公社の理事会資料によると四十八年五月末現在すでに借り入れた額が二億三千百九十五万あり、さらに借り入れ予定額が一億円、合わせて三億三千百九十五万報告されておるわけなんです、そこでお尋ねしたいことは限度額の中の工事費二億一千二百五十四万との差額、先ほど申し上げました合わせて三億三千百九十五万と工事費として二億一千二百五十四万円との差額であります。一億一千九百四十一万円が取得に要する経費と解釈してよいかどうか。でないとしたらどのような金額が組まれておるのか。また取得に要する経費は幾らであつたかどうか。ひとつお聞かせ願ひたい。

○企画課長（伊藤幸太郎君）　ただいまの御質問の数字、ちょっと私にも理解しかねるんでございすますが、恐れ入ります。

○二〇番（君塚喜三君）　過ぎた八日の日にいただいた事業資金借り入れ予定表に受託事業として市道舗装というのがございす。これは四十七年度に債務負担行為として市会を通過したものです。



それを今度その経過について報告がなされたわけです。その報告によりますと四十八年ことしの五月末現在で借り入れ額が二億三千百九十五万、それから四十八年六月から来年の三月までに借り入れ予定額として一億、合わせまして三億三千百九十五万という数字が報告されておるわけなんです。ところが限度額としてはただいま申し上げましたように二億一千二百五十四万円と取得に要する経費ということになっておるわけでございます。したがって結果として出ましたところの三億三千百九十五万円からこの限度額内の工事費である二億一千二百五十四万円を差し引いた額すなわち一億一千九百四十一万が取得に要する経費ということになるかと思うんですが、そう解釈していいかどうか。

ところが、あまりにも大きいのでどうも不審に思うわけなんです。が、だとしたならばこれにはどういう金額が含まれているのか。それと一体取得に要する経費は幾らであったのかどうか。もう終ったことなんだからわかっておるはずなんです。それをお聞かせ願いたい。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 先ほど申し上げました五月末現在で借入してございます残りの現在でございます借入金が約八億円、そのうちの市道舗装が二億三千百万あまり、この問題だろうと思うんですが、これでよろしゅうございますか。

○二〇番（君塚喜三君） この事業資金借り入れ予定表で報告せられた分というのは四十八年度ではなくてその前年度の方、四十七年度におけるところの債務負担行為として承認せられたものだろうと思うんです。そうですね。その結果がこういうことになって出てきておるわけでございますから、問題はその限度額なんです。

す。工事費として二億一千二百五十四万円ということであるにもかかわらず出ておるのが三億三千百九十五万という金が出ておるからあとは取得に要する経費ということになるかと思うんです。それにしてもあまりにも大きいからこれには何かのものが含まれているのかどうなのか。

もし含まれているということになると限度額というものの意味合いがわからなくなる。それが限度ですという、工事費と取得に要する経費というものが限度額としてあるわけなんです。けれどもそれ以上のものが入っているとすれば限度額をオーバーしちゃ。そのオーバーがずつときて今度のようにな十億のワク内で満たすことができないんだというような結果が出てきたんじゃないか。こういうふうに思われるのでお尋ねするわけなんです。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 市道舗装の関係であろうかと思いますが、これは先ほど申し上げましたとおり過日の理事会等でも一応お話し申し上げた額の点につきましては四十七年度の工事に対します。いわゆる四月一日以降に支払われる金でございます。これは四十八年度の工事に対する支払いという意味ではございませんで、四十七年度に支払いが残っておりますものに対します。支払いでございます。先ほど申し上げました五月末現在におけるところの約八億円弱の借入額と申しますのは、四十八年の五月三十一日現在におきます借入金の総額でございます。でありますのでただいまお願いしてございます新しい年度の二億三千万の、いわゆる舗装工事費の受託の額は全然この仕事には入ってございません。

○二〇番（君塚喜三君） だからお尋ねしているわけなんです。



四十八年度は委託債務負担行為として工事費限度額二億三千万及び取得に要する経費というものがまた認められておるわけで、四十八年度の予算で、ところが市道舗装といって報告せられた額というのはこれは四十七年度の限度額として工事費二億一千二百五十四万円、取得に要する経費、これに相当するわけでしよう。その前のやつが重なっておるわけですか、そうだとすればよろしいですけれども。

○企画課長（伊藤幸太郎君）　ちょっとこれは説明がへただったかも知れません。ここに四十八年度の事業計画として盛ってございます金額、これは四月一日以降から支払うべきものだ、これはそのとおりでございます。しかしながら四十七年度の事業計画の中に四十七年度で公社が受託いたしました舗装工事が二億円でございます。でありますので、その差額につきましてはすでに資金計画はなされている、別に、四十七年度の事業計画の中に織り込まれております。織り込まれております事業計画といまここでお示しております額を合わせまして四十七年度の二億円の受託の費用金額だということでございます。

○議長（吉田勇治郎君）　暫時休憩いたします。

午後三時三十二分　休　憩

午後三時四十五分　再　開

○議長（吉田勇治郎君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

○企画課長（伊藤幸太郎君）　君塚議員さんの御質問でございますが、君塚議員さんの御質問の数字は四十七年度だけでございまして、いままでの累積合計額でございますので御了承いただきたいと思います。

○二〇希（君塚喜三君）　了解しました。  
○議長（吉田勇治郎君）　他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君）　おはかりいたします。本案を委員会付託を省略するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。

討論に入ります。討論ございませんか。――討論なしと認めます。

#### 採　決

○議長（吉田勇治郎君）　採決いたします。本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

#### 議　案　の　上　程

○議長（吉田勇治郎君）　日程第十、議案第五十六号昭和四十八年度館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

議案第五十六号　昭和四十八年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）

なお、申し上げます。本議案第五十六号中一七ページ資本の部の



企業債とありますうちに誤字がございますので、訂正方の申し出がございましたので御了承願いたいと思います。起業債の「起」が企画の「企」でございますので御訂正願います。以上でございます。

### 質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 直ちに質疑に入ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 補正予算には問題がないわけですが、公営企業として水道事業が発足にあたった当初の貸借対照表の問題ですが、これがこれからの事業会計の基礎になると思うんですが、この中かなり記載漏れとか誤謬とかが出されておりますが、これは発足にあたって、いまになってこういうような記載漏れとか誤謬とかが出てくることはかなり発足にあたってのずさんなそういうものがあつたんじゃないかという点で釈明を求めたいと思います。

○水道課長（大嶋重義君） ただいま渡辺議員さんからの御質問でございますが、予定開始貸借対照表におきまして当初のものとその後打ち切り決算をいたしました結果についての相違が若干出ておるわけでございます。

これにつきましては提案説明の際にも御説明申し上げましたのですけれども、これをつくる時点は、本年の二月初め頃の時点におきまして当時これは簡易水道の特別会計の時代でございますが、この時点におきまして一応三月三十一日現在を見通しまして四月一日現在での予定開始貸借対照表をつくったわけでございます。そういう関係でございます、その間打ち切り決算が行なわれま

して数字等もふえてまいりましたし、それから御説のように記載漏れとか誤謬につきましては、私も当時企業法の適用の関係と同時に企業会計移行の仕事、そういった作業もございまして、この事務についての多少未熟な点もございました関係でそのような点が二、三出たようなわけでございますが、以上のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 了解。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略して、直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議 案 の 上 程



○議長（吉田勇治郎君） 日程第十一、發議案第一号出入国法案反対に關する意見書の提出についてを議題といたします。

朗読を願います。

（書記朗読）

發議案第一号 出入国法案反対に關する意見書の提出について

### 議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 提案者の説明を求めます。御登壇願います。

（九番議員辻田 実君登壇）

○九番（辻田 実君） 出入国法案反対に關する意見書についての提案説明を申し上げたいと思います。

ただいま朗読がございましたように、この出入国法案につきましては一九五一年ポツダム宣言に基づく政令によりまして出入国管理令というものが施行されたわけでございます。その後この出入国管理令につきましては一九六五年まで必要に応じて十四回の改正を国会において行なってきたところでございます。これにつきましては出入国管理令ということで、つまり米軍の占領法規だからこのへんでそろそろ法律にしたいというのが今回の趣旨であるわけでございます。

過去三年間にわたりましてこの出入国法案は提案されたわけでございますけれども、与野党の意見の不一致並びに世論の反対の高まりの中でもって廃案になったわけでございます。特に四十七年、昨年の七月十一日には自由民主党の中からも五項目にわたるところの修正案が出されております。この修正案の内容は在日

朝鮮人の身分が明らかにならないままにこの法律案を通すことは在日朝鮮人に対する非常なる不利益を与えるということで、自民党からもこの發議が出て、そしてその折衝が与野党でなされたにもかかわらず審議未了のまま流産したということでございます。

今国会においても同様な法案が四たび出ております。今日国会の混乱におきましてこの出入国法案については与野党の折衝にはまだ入っておりません。現在の見通しでは国鉄法案、さらに健保会計法案、防衛二法案、こういうような法案があるのでこの出入国法案については審議未了になるんではないかというようなマスキミの報道等も流れております。

その根本はいま申し上げましたように館山市にも多くいるところの朝鮮人、これは日本の国であるときに日本に来てた人、この人たちが出入国管理法によって外人扱いされているわけです。外人扱いされておっているいろいろな健康保険の問題とか、いろんな営業するところ、飲食店や商売やるとか、そういうときの問題、それから旅行するときに身分証明書を持っていかないと不携帯罪でもって云々というような問題、さまざまな問題があるわけです。

朝鮮人というのは日本の国のときには日本に来てたわけですから終戦によってポツダム宣言によって自動的に外人になつたということでもって、これが今度は法律になつてそのまま施行されるということになりますと、この朝鮮人の人たちが即座に非常な制限を受ける、生活的な制限もいろんな制限も直接出てくるということでございます。

これはジュネーブ会議等においてもいろいろ論議されておるところでございますけれども、こうした多くの他国民が国の中に存



在する場合にこの種の法律の施行というものは見合わせるか、またはそういう多くの他国人種の生まれた人に対するところの保護立法をしてから相並行して出すというのが一般的で国際通念になつておるんだそうでございます。

こういうことでもって与野党ともにこのものは通せない、したがって政府自身も国会の審議の中において朝鮮人の問題については別途考慮していきたいということは表明のみでもって、具体的な法律そのものが出てきてないということで朝鮮人をはじめ、その朝鮮人も日本人と結婚した人がたくさんいるわけでございます。奥さんは日本人で旦那さんが朝鮮人になってしまったということがたくさんあるわけです。これは非常に問題があるわけです。結婚するときは日本人同士だったんですけれども、敗戦でボツダム宣言によって別になるというような問題を解決されない中の執行についてはかなり問題があるということで、館山市にも相当の該当者があることでございますので、この点についてはそうした日朝鮮人の問題、保護立法が成立後に出入国法案を通すようにしていくのが妥当だというふうに考えられるわけでございます。

そういう意味において、やはり今回の国会においてもこの出入国法案についてはそういう問題を処理してからこの法案を作成するようお願いするという意味におきまして、館山にも多くの朝鮮人があるという立場においてこの議会からもそういう意向をとつてやはり審議すべきという面において意見書を出していただきたということでも本議案を提案した次第でございます。どうか皆さん方の御賛同をよろしくお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑ございませんか。御質疑なしと認

めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託することを省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいま辻田議員から出されました出入国法案反対に関する意見書に賛成の討論をいたしたいと思ひます。

辻田議員からただいま説明のあったように出入国法案というのが、いわば出入国を管理する管理法が形をかえて出されてきたものであります。これは外国人に対する、特に外国人の対象として朝鮮民主主義人民共和国の人民に対する一つの自由往来の規制、その中には民主的権利を規制するような反人民的な規制が織込まれております。

特に重要なのは、在日朝鮮人の権利がおかされているということです。これはやはり在日朝鮮人の保護立法と並行してこの出入国法案が朝鮮人の自由往来、そういうようなことがこれからの日本を考えても北ベトナムとの国交の正常化というようなことが進



められておりますし、南北朝鮮におきましても和平統一といううな運動も盛り上がってきているような中で、日本が特に朝鮮民主主義人民共和国を差別するようなこいう法案に対しては私たちは賛成することができないわけであります。将来の日本を考えましてもこの国とも自由に往来できるような、差別のないそういう国をつくり上げていくためにも、この出入国法案に反対するようぜひ皆さんの御賛同を得たいと思います。以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立少数。よって否決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第十二、発議案第二号小選挙区制に反対する意見書の提出についてを議題といたします。

朗読を願います。

（書記朗読）

発議案第二号 小選挙区制に反対する意見書の提出について

## 議 案 の 内 容 説 明

○議長（吉田勇治郎君） 提出者の説明を求めます。御登壇願います。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一〇番（渡辺軍治郎君） 意見書の提案理由を説明いたします。すでに小選挙区制がどういふものかということは議会内外で大きな問題になりましたので皆さんも御承知のことと思いますが、小選挙区制が区割りとは比例代表制の併用によりましてある一つの党に非常に有利な選挙法の内容でございます。相当地の民意に反映されない、いわゆる死票といいますが、そういうものが相当多くなる。そういうような法案の内容になっているわけでございまして、これは議会制民主主義の根幹にも触れる問題でありまして、自民党内部でも相当慎重を期するといふような意見があります。そういうことで、この法案が今国会に上程は一応断念されましたが、今後小選挙区制案が再び出て来ないという保証はどこにもないわけであります。

そこで私たちはこういう民意が正確に反映されないような、議会制民主主義を破壊するような小選挙区制案には反対でありまして、今後もしやういふ法案が再び議会に出されないように私たちの民意を政府に伝える必要があると思います。そういうことで小選挙区制に反対する意見書の提出をいたしました。どうか皆さま方の良識をもちまして御賛同たまわりますようお願いする次第でございます。

## 質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 質疑に入ります。



〇二二番（田村源治郎君） 新聞で見ただけでも、小選挙区制案というものを議会上程したいと田中内閣はしようとしたけれども、小選挙区制というものをするとどの様に悪くなるのか、現在より。それらはわかりませんから。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） ちょっといままで出されている内容を見ますと、千葉県の場合ですと、千葉県の定数は十三人ですが、これを八選挙区に分けて、一選挙区一人というものが小選挙区制になるわけですが、区割りの問題についてはかなり大きな問題があつて区割り委員会が解散されたというようになってはいますが、たとえば一区一人といふと自民党が四十八万といふような得票率でありますと八区でありますから最高点のものが八人当选するわけです。自民党が八区で当選しますと八議席は自民党が占めるわけがあります。

ところが比例代表制を合わせていきますと、大体得票順に四十八万を一で割って四十八万以下のものがなければその人が当選になる、四十八万を二で割って二十四万、ほかの政党にそれだけの得票がないとこれも自民党にいくというようなことで、そういうような形で三で割り、四で割るといふようなことで議席が割り当てられるわけでございます。これでいきますと大体三、四〇%の得票率で八〇%の議席を占めるといふようになるとなるわけです。千葉県の場合を見ますと、おそらくこの小選挙区制が出ますと社会党一人ぐらいが当選の中に入るかもしれませんが、前の選挙の実績からみてあとは全然出られないというようなことで社会党、革新を指示するような票がみんな死票になるということで民意が議会に反映されないというようになるとなるわけです。逆もあり

ますけれども。（笑声）現状からみれば中選挙区がいまの情勢には適応しているのではないかということで、相当これは長い期間こういういまのような選挙制度でいったほうがいいんじゃないかというのが一般の意向であります。

日本共産党としては、理想的な選挙方法はどうかということになれば、全国を一選挙区にして比例代表制でやるというのが得票率に応じて議員の定数がきまるといふことで理想的じゃないかというふうに私どもは考えております。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案について委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略されました。

#### 討 論

〇議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。反対の討論はございませんか。――賛成者の討論はございますか。

（一九番議員島野茂樹郎君登壇）

〇一九番（島野茂樹郎君） 発議案第二号に賛成をする立場から賛成の討論をしたいと思います。

皆さんもすでに御承知のとおり、小選挙区制は過日の新聞紙上



でも、あるいはその後の高まる反対運動、そういうようなことが毎日報道されておりますからすでに御承知のことと思うのですけれども、ただいま渡辺さんから御説明ありましたように四〇数%の得票率で八〇%の議員を獲得する、こういうような非常に死票をたくさんつくり出すということが言えると思います。

また一党が独裁をもって長期安定の政権を獲得する、これは外国であれば、ほんとうに民主主義の進んだ国でそういうようなことが行なわれたとすればこれは考えようもあるわけですからけれども、日本のような場合は非常な危険性を感じます。

いまの自民党政府が戦後長年にわたって政権を担当してきましたけれども、御承知のような国情になってきているわけです。公害、物価高、国民の生活はGNPばかり上っても決して安定したものというものにはなっていない。さらに議会の中を独占して自由な政治ができるというようになりますと、非常な財界との結びつきの強い日本では一体どういうことが起こるだろうという心配を私どももせざるを得ないものでございます。憲法の改正そして海外への派兵、再び日本を戦争の方向に持っていくような危険性を小選挙区制というものに感じます。

さいわいにいまは国会に上程をするということが一応つぶされましたけれども、田中首相等の発言では私の支持率が一%になってもこの小選挙区制は通すというようなことを言い始めておりますし、いかに小選挙区制に対する根強いものがあるかということをおもうときに、私どもはこの小選挙区制がもたらす日本の将来というものを考えて、こういう悪い法案は国会に上程をしないように、ぜひとも私どもの総意をもって意見の開陳をすべきであらう

こういうふうに考えるところであります。どうか皆さん方の満場一致で御採択をいただきますことを私からもお願いをいたします。賛成討論にかえたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立少数。よって本案は否決されました。暫時休憩いたします。直ちに全員協議会を開催いたしますので御参集願います。

午後四時 十八分 休 憩

午後五時二十五分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

## 会議時間の延長

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本日の会議時間は議事の都合により、この際あらかじめこれを延長したいと思っております。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日の会議時間は延長することに決定いたしました。



## 日程の追加

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本議会の申し合わせにより常任委員会の委員の改選を行ないたいと思います。これを本日の日程に追加し、直ちに議題といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって常任委員会委員の改選を日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

## 常任委員会委員の選任

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。ただいまの決定により現在の常任委員会委員は全員それぞれ辞職し、全委員会ともに欠員となったことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

おはかりいたします。ただいま決定されましたとおり各常任委員会ともに欠員になりましたので、本日直ちにこれが選任を行ないたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日直ちに選任することに決しました。

これより各常任委員会委員を本市委員会条例第四条の規定によ

り選任いたします。各常任委員会委員の氏名を書記をして朗読いたさせます。

○書記（脇田元始君）

朗読いたします。

総務委員会委員  
吉田勇治郎さん、辻田 実さん、山本 昇さん、飯田義男さん、安沢徳順さん、田中 禄郎さん、秋山六三郎さん。

経済委員会委員  
鈴木 稔さん、近藤好雄さん、栗原一雄さん、渡辺昭夫さん、藤田益治さん、和田一郎さん、島野茂樹郎さん。

文教民生委員会委員  
流山源次郎さん、渡辺軍治郎さん、五十嵐昇さん、辻井謹爾さん、安西益男さん、西村真次さん、望月照正さん、遠山ヨネ子さん、林 豊さん、石井武敏さん、伊賀多朗さん、宮野敏朗さん、君塚喜三さん、鈴木市蔵さん、田村源治郎さん、菊井敏博さん。

建設委員会委員

林 豊さん、渡辺昭夫さん、石井武敏さん、辻田 実さん、菊井敏博さん、西村真次さん、望月照正さん、遠山ヨネ子さん。

議会運営協議会委員

○議長（吉田勇治郎君） ただいま朗読いたしましたとおり各常任委員会委員に選任いたします。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

この際同条例第五条の規定により各常任委員会において互選されました正副委員長を報告いたします。

○議長（吉田勇治郎君）

朗読いたします。

この際同条例第五条の規定により各常任委員会において互選されました正副委員長を報告いたします。



総務委員会委員長 飯田義男君 同副委員長 辻田 実君  
経済委員会委員長 藤田益治君 同副委員長 栗原一雄君  
文教民生委員会委員長 望月照正君 同副委員長 辻井謹爾君  
建設委員会委員長 菊井敏博君 同副委員長 君塚喜三君  
議会運営協議会委員長 西村真次君 同副委員長 菊井敏博君  
以上のとおり互選されましたので報告いたします。

### 日程の追加

○議長（吉田勇治郎君） ただいま副議長秋山六三郎君から副議長  
の辞職願いが提出されました。

おはかりいたします。この際副議長辞職の件を日程に追加し、  
議題とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 副議長 の 辞 職

○議長（吉田勇治郎君） よってこの際副議長辞職の件を日程に追  
加し、議題といたします。

まず辞職願いを書記をして朗読いたさせます。

（書記朗読）

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。秋山六三郎君の副  
議長の辞職を許可することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって秋山六三  
郎君の副議長の辞職を許可することに決しました。

この際秋山六三郎君より発言を求められておりますので、暫時  
これを許します。御登壇願います。

（二九番議員秋山六三郎君登壇）

○二九番（秋山六三郎君） ひとつことごとく申し上げたいと存  
じます。

私は去る昭和四十六年の選挙によりまして出てまいりまして、  
以来本日まで二カ年の間副議長という非常に重い職務を皆さまの  
御同情と御理解によりまして今日までつつがなく過ごしてまいっ  
たのでございますが、私はいまさら申し上げるまでもなくきわめ  
て浅学非才でございまして、この職責を十分に果たせなかつたと  
いう点に對しまして深くさんざんなえないところでございます。

なおかつ、私は副議長に選任されて以来、とかく病気がち  
でございまして、その間欠席等もいたしまして、たいへん皆さん  
に御迷惑をおかけいたしましたというにつきましては、これまた  
私非常に残念に思っております。これもまた皆さんのあたたかい  
御同情によりまして今日までこの職責を続けさせていただいたこ  
とに對しまして厚くお礼申し上げる次第でございします。

先ほど辞表を提出いたしましたして、副議長の職を解いていただく  
ことになりましたが、私今後は議員といたしまして、健康も徐々  
に回復しつつあるので、これからは一議員といたしましてできる  
だけの努力を払いまして、館山市政進展のためにお尽し申し上げ  
たいと考えておる次第でございします。

どうぞ今後とも何ぶんよろしく御指導、御鞭撻のほどをお願い  
いたす次第でございします。いままでの深い御理解と御指導に對し  
まして心からお礼申し上げる次第であります。ほんとうにありが



とうございました。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 以上をもって秋山六三郎君の発言を終ります。

## 日程の追加

○議長(吉田勇治郎君) ただいま副議長が欠員となりました。おはかりいたします。この際副議長の選挙を日程に追加し、選挙を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

## 副議長の選挙

○議長(吉田勇治郎君) よってこの際副議長の選挙を日程に追加し、選挙を行ないます。

暫時休憩いたします。

午後五時三十六分 休憩

午後六時四十六分 再開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまより副議長の選挙を行ないます。

議場の閉鎖を命じます。

(議場閉鎖)

○議長(吉田勇治郎君) ただいまの出席議員数は二十七人であります。

投票用紙を配付いたします。

(投票用紙配付)

○議長(吉田勇治郎君) 投票用紙の配付漏れはございませんか。

1 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

(投票箱点検)

○議長(吉田勇治郎君) 異状なしと認めます。

この際申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

(書記指名点呼、投票)

○議長(吉田勇治郎君) 投票漏れはございませんか。――投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。議場の閉鎖を解きます。

(議場閉鎖)

○議長(吉田勇治郎君) 開票を行ないます。

会議規則第三十一条第二項の規定により立会人に安西益男君及び田中禄郎君を指名いたします。よって両君の立ち会いを願います。

(立会人登壇、開票)

○議長(吉田勇治郎君) 選挙の結果を報告します。

投票総数二十七票、これは先ほどの出席議員数に符合いたします。

そのうち有効投票二十六票、無効投票一票

有効投票中田村源治郎君二十票、島野茂樹郎君六票、以上のとおりであります。

この選挙の法定得票数は七票であります。よって田村源治郎君が副議長に当選されました。



ただいま副議長に当選されました田村源治郎君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

### 副議長のあいさつ

○議長（吉田勇治郎君） この際副議長田村源治郎君を御紹介いたします。御登壇願います。

（二二番議員田村源治郎君登壇）（拍手）

○二二番（田村源治郎君） 選挙をし、私みたいな浅学非才な者でありますけれども、選挙された以上は皆さんに対して姿勢を正してよりよい議会の繁栄をはかり、もって自分の職責を全うしていきたいと存じております。

どうぞ皆さん足りないところは足していただきまして、ひとつお願いしたいと思います。できる限り自分の全力をはかって、皆さんをはずかしめないように職責を全うしたいと思います。よろしく願います。（拍手）

### 閉

会 午後七時二分閉会

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よって会議規則第七条の規定により本日をもって第二回市議会定例会を閉会いたしますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本定例会はこれにて閉会することに決定いたしました。

どうも長時間御苦勞さまでした。

○本日の会議に付した事件

一、報告第一号

一、議案第四十八号乃至議案第五十六号

一、発議案第一号、発議案第二号

一、日程追加 常任委員会委員の選任

一、日程追加 副議長の辞職

一、日程追加 副議長の選挙

地方自治法第二百三十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会副議長

館山市議会議員

館山市議会議員

吉田勇治郎  
田村源治郎  
鈴木 稔  
伊加具多郎



